第37回全日本総合選手権大会

湧永 輝くV7達成

立石"女王"の座に返り咲く

第37回全日本総合選手権大会は、昨年末の12月17日から21日までの5日間、東京体育館に男子24チーム、女子16チームが参加して開催された。

男子では湧永製薬のV7が成るかどうかが今大会の大きな関心だったが、湧永はベテラン選手たちを中心に安定した戦いぶりで勝ち進み、決勝戦では前回と同じく大崎電気との対戦となった。2年連続で湧永へのチャレンジとなった大崎は、準決勝で本田技研鈴鹿と第2延長までもつれ込む大熱戦を展開、大逆転劇で勝ち上がった勢いで湧永の連覇を阻もうとしたのだが、せり合えたのは前半中ばまで、以後じりじりと突き放されてしまった。

湧永製薬は、今大会若手の主力、玉村、酒巻の両選手を西独留学で欠いての戦いだったが、ベテラン選手のがんばりで見事7連覇を達成した。(通算回数は9回)。

一方女子は、前回初優勝を飾った日立栃木が準決勝でジャスコに敗れ、決勝戦は立石電機山鹿とジャスコの顔合わせとなった。立石は退場を出してフィールドプレーヤー4名というピンチを迎えたりもしたが、"助っ人"ビスニッチの活躍でしのぎ、延長戦の末ジャスコを降して3年ぶりに"女王"の座に返り咲いた(通算3回目)。

男子

◇1回戦

本田技研熊本 25〔12―13、13―9〕22 瓢箪クラブ

○…立ち上がりポストプレーで瓢箪クラブが先行するが、本田技研熊本もポストプレー、速攻、サイドなどで得点する。しかし、瓢箪クラブはサイド攻撃で加点し、1点をリードして前半を終了する。後半に入り本田技研熊本は長野の連続ミドルでペースをつかみ、その後は速攻、ポスト、サイドなどで加点する。これに対して瓢箪クラブは速攻などで一時は3点差にするが、じりじりと追いつかれ、16分過ぎに同点にされ、シュートミスも目立ち惜しくも敗退する。瓢箪クラブGKの好守が光った。(中本)

	〔熊本〕	得	〔瓢箪〕	得
GK	岩本	0	飯塚	0
GK	坂本	0	高橋	0
FP	斉所	3	飯田	1
FP	中村	4	松本	4
FP	佐伯	5	岡部	1
FP	長野	7	栗山	0
FP	岡崎	1	辻	5
FP	鯖江	3	永沢	5
FP	荒田	2	池田	0
FP	三代	0	寒河江	0
FP	樋口	0	茂木	6
		25		22
PT		(6)		(3)

〔審・福田、松尾〕

三景 26〔13―7、13―11〕18 日体大

○…念願の一部復帰が成り元気いっぱいの三景に対し、インカレ3位の日体大の若さとパワーがどこまで通じるか期待を持たせたが、まず日体大が3分に先手をとったが、退場のスキをついて三景が逆転、中盤以降攻撃のバランスの良い三景が徐々に点差をつけ、前半を13―7で折り返す。後半、日体大が立ち直るかに見えたが、三景の鋭い攻めは衰えず、単発的に反撃する日体大を押えて快勝した。(北井)

	〔三景〕	得	〔日体〕	得
GK	中村	1	大沼	0
GK	北川	0	藤本	0
FP	田畑	5	藤田	1
FP	太田	2	鳥谷	5
FP	近藤	3	林	0
FP	高橋	0	長谷川	3
FP	福永	0	風間	2
FP	田村	3	明石	1
FP	岡部	0	長沢	2
FP	山田	1	宮里	0
FP	大谷	1	横山	0
FP	郡司	10	中澤	4
		26		18
PT		(1)		(2)

〔審・岡本、清水〕

トヨタ車体 29〔16―16、13―11〕27 桜門クラブ

○…桜門クラブのポストからの得点をトヨタ車体はどうしても守ることが出来ず、先行しては同点に追いつかれ、どうしてもリード出来ぬまま同点で前半を終了。トヨタ車体が後半どのように守るか期待されたが、同じペースでの攻防のくり返しのゲーム展開、最後までどうなるかわからない。どちらが抜け出すか、抜け出したチームが有利に見えていたが、22分、トヨタ車体のパスミスから桜門クラブがリードで抜け出し、そのまま行くかに見えたが、トヨタ車体もよく粘り逆転に成功、そのまま終了。桜門クラブとしては、悔やまれる敗退となった。(松尾)

	〔車体〕	得	〔桜門〕	得
GK	宮田	0	萩原	0
GK	村林	0	山崎	0
FP	長野	9	金子	2
FP	藤長	0	釆野	2
FP	萩原	0	宮沢	3
FP	石丸	0	新井田	5
FP	磯貝	0	高野	1
FP	河村	8	安福	0
FP	松井	7	金岡	4
FP	中島	5	藤村	5
FP	蓑田	0	金原	5
FP	大垣	0	福本	0
		29		27
PT		(1)		(2)

〔審・中本、大塚〕

筑波大 27〔11―15、16―11〕26 本田クラブ

○…スピードの筑波大、テクニックの本田クラブの試合は、筑波大が本田GK柴田の好守に、再三ノーマークシュートをはずしながら残り1分、押川の速攻で勝利を収めた。

前半15分までは一進一退の攻防をくり返した。筑波大の方がやや押し気味にノーマークのチャンスを作り出すが、GK柴田に得点を阻まれた。一方本田クラブは、一人一人が高度なテクニックを使い、同点でついて行った。前半15分、筑波大の動きが鈍ったスキに本田クラブが得点を重ね、本田のリードで前半を終了した。しかし、後半も一進一退の攻防が続いた15分過ぎ、筑波大がプレスディフェンスで本田の攻撃を封じ、攻めても

野田のロングが決まり一気に逆転した。本田クラブも佐藤のフリースローからの直接のシュートで同点としたが、残り1分のミスからの速攻で延長の夢を断たれた。
　筑波大のスピードを本田クラブGK柴田の好守が光るゲームであった。（記入者不明）

〔本田ク〕得 0 3 7 4 0 7 1 1 3
田　田藤岡藤野元本橋
柴　西佐豊加矢谷松高
GK　FP（審・上久保　北井）
野　井田井川田永下松水田輪
狩　澤会新押野松山永清高三
得〔筑波〕0 0 2 2 2 11 0 1 3 2 2 2
26 (3) PT (3) 27

中村荷役運輸 29（18—8　11—12）20 自衛隊呉

○…パスカットからの速攻で先手を取った自衛隊呉は、GK須堯の好守に助けられながらスイッチの悪い中村荷役のディフェンスをポスト、カットインなどで巧く攻め12—11と1点リードで終わる。後半2分、中村荷役は福士の6点目で初めて同点とし、13分またも

〔呉〕得 0 0 5 0 2 3 0 7 0 0 3
堯先賀見田川田田玉岡光
須山寿塩和西岡池児村利
GK　FP（審・斉藤　千野）
井　次口士木尾田原田田野井
石　末坂福大三塚長窪吉小酒
得〔中村〕0 0 2 12 4 4 1 2 0 0 3 1
20 (1) PT (4) 29

福士で18—17とリード。その後も4連続得点し、ややスタミナが切れて来てミスの多くなった自衛隊呉をふり切った。自衛隊呉の健闘に拍手を贈りたい。（森）

滋賀教員 26（11—12　15—12）24 日大

○…前半、滋賀教員は日大のディフェンスの甘さからロングシュート、サイドからのシュートなどで得点し、一方的かと思わせたが、徐々に日大もポストからのシュートが良く決まり、3点差までに追いつく。後半、攻防が少し雑になった滋賀教員を日大が同点とし、その後一進一退のゲーム展開をしたが、試合経験豊富な滋賀教員が勝利を得た。（井上）

〔日大〕得 0 0 7 2 1 0 7 5 0 0 0 2
田明部中　形藤田川坂見平
田岡
吉木阿小　山近堀堀白吉野
GK　FP（審・後藤　島田）
山　田藤波上田野山田
松　佐伊能井武大橋村
得〔滋賀〕0 4 1 10 8 3 0 0 0
24 (1) PT (2) 26

トヨタ自動車 38（17—19　21—6）25 本田技研爽風会

○…走力とシュート力において一歩先んじたトヨタは、細かなパスワークから見事なカットインで加点、本田のミスプレーも多く、それを速攻に生かし前半21—6の大差で折り返した。後半本田は、左腕・金沢のロングシュートからリズムをつかみ始め攻めに幅が出来、パスワークも良くなり追い上げたが、トヨタの巧みのあるディフェンスに圧倒されミスが多くなり、また、退場を続けて出したのは惜しかった。（千野）

〔爽風会〕得 0 0 0 0 4 1 5 3 9 0 3
宅本原西野砂　谷下下沢
東
三橋藤香山真　船山松金
GK　FP（審・川島　森）
津西子江西木本田井内本永
玉中乙堀中高相川香山久松
得〔自動車〕0 0 1 3 6 0 6 4 10 5 1 2
25 (0) PT (1) 38

京都教員B 29（14—15　15—11）26 中部大

○…立ち上がり京都教員は、サイドシュートを2本決めてペースをつかみ、6分には4—1とリード。しかし、その後一進一退の試合展開。23分には京都が4点を連取し、そのまま引き離すかに見えたが、中部大も3点を取り15—11で前半を終える。後半に入り追い上げる中部大は、北のサイドシュートとカットインで2点を連取、

〔中部〕得 0 0 0 0 2 8 5 5 0 5 0 1
嘉谷原山村　場野村利村保
北
比水河當山　馬中今毛中官
GK　FP（審・島崎　井上）
本　府井西本田村山路智辺
咲　国酒奥藤福西杉佐越池
得〔京都〕0 9 5 0 1 1 7 2 0 0 4
26 (0) PT (4) 29

15—13としたが、その後ミスから京都教員に得点を許し、追い上げる芽を自らの手でつんでしまった。
　両チームともミスの目立つ試合運びであったが、攻撃力に勝る京都教員が第1戦をものにした。（後藤）

◆2回戦

湧永製薬 35（21—6　14—8）14 本田技研熊本

○…前半、湧永は雑なディフェンスから5名の退場者を出し、熊本の長野のがんばりで思わぬ苦戦をしたが、後半に津川、山本のベテランを投入すると攻守ともに動きが良くなり、15分で9点をあげ一気に勝負を決めた。熊本も長野を中心に良くまとまったチームであったが、後半10分～20分の無得点が痛かった。湧永・山本は後半だけで7得点をあげる活躍を見せまさに一人舞台であった。（清水）

〔熊本〕得 0 0 0 2 0 3 7 0 0 2 0 0
本本上所村伯野崎江田代口
岩坂田斉中佐長岡鯖荒三樋
GK　FP（審・後藤　島田）
城藤上駒本賀川田本田原川
ノ
大井池生藤志中内山奥楢津
得〔湧永〕0 0 8 5 3 2 3 2 7 1 2 2
14 (0) PT (3) 35

三景 37（22—10　15—12）22 栃の葉ク

○…栃の葉クラブはスピードの変化とコンビ、三景は早い動きか

らのコンビと両チームそれぞれ自己のペースでゲームを展開、前半は15—12と三景がリード。後半の立ち上がり、スピードの落ちた栃の葉を巧く攻めた三景は22—14と試合を決めたかに見えたが、ここで痛い連続退場があり、23—21と再び栃の葉が盛り返した。その後三景GK・中村の好キープもあり、動きの鈍くなった栃の葉をスピードで押し切った。（森）

	〔栃の葉〕	得	〔三景〕	得
GK	岩下	0	中村	0
	高橋	0	北川	0
FP	川田	0	田畑	9
	岸	0	太田	3
	中山	4	近藤	9
	山本	0	高橋	0
	小西	0	峰尾	0
	大出	0	福永	0
	滝口	6	田村	7
	武井	2	岡部	0
	名嘉井	8	山田	3
	薄井	2	郡司	6
PT	(1)		(0)	
		22		37

（審・上久保　北井）

トヨタ車体 27 〔13－13　14－13〕 26 大体大

○…前半の立ち上がり両チームともミスが続くが、トヨタ車体が2分過ぎ速攻で得点、その後も早い攻撃で得点を重ねる。しかし、8分過ぎトヨタに2人の退場者が出る間に大体大がPTで初得点、その後も確実に加点、12分過ぎには5—4と逆転。だが、トヨタも前半終了間際に再逆転に成功、14—13の1点で前半を終わる。後半すぐに大体大がまた逆転、それをトヨタがまたひっくり返すなど一進一退のゲーム展開、終了35秒前に大体大楠本のシュートで同点となり延長戦かと思われたが、トヨタの松井がサイドシュートを決めて勝利をものにした。トヨタ車体GKの富田の再三の好守が、トヨタを勝利にみちびいた。（川島）

	〔大体〕	得	〔車体〕	得
GK	山下	0	宮田	0
	徐	0	村林	0
FP	斉喜	5	長野	11
	岡田	4	藤長	3
	佐久間	4	萩原	1
	的場	0	石丸	0
	楠本	7	磯貝	0
	山村	4	河村	4
	大塚	2	松井	7
	谷口	0	中島	0
	真田	0	蓑田	0
	渡辺	0	大垣	1
PT	(2)		(2)	
		26		27

（審・岡本　清水）

日新製鋼 29 〔15－14　14－6〕 20 筑波大

○…実力に勝る日新は、立ち上がりから速攻、そしてセットと着実に得点を重ねる。一方筑波大は、若さを生かし速い動きでスカイプレー、後半にはオールコートマンツーマンなどで対抗し日新のペース崩したが、力及ばず日新の勝利に終わる。

両チームともディフェンスのプレーにおいて一考が必要と思えるプレーが多かった。（島田）

	〔筑波〕	得	〔日新〕	得
GK	狩野	0	西川	0
	澤井	0	森田	0
FP	会田	1	森	5
	新井	2	西山	3
	押川	0	吉見	2
	野田	7	甲斐	1
	松永	2	藤井	2
	山下	2	日野	1
	永松	1	堀田	6
	清水	2	一瀬	3
	高田	2	高木	4
	三輪	1	脇若	2
PT	(2)		(1)	
		20		29

（審・川島　森）

本田技研鈴鹿 31 〔14－11　17－6〕 17 中村荷役運輸

○…立ち上がりから本田技研のペースで進み、中村荷役のパスもシュートもことごとくカットされ速攻に結びつけられた。後半に入ると中村荷役の動きも良くなり、本田技研のミスにつけ込んで着々と加点したが、後半20分過ぎから本田のシュートが決まり、31—17と本田が順当勝ちを飾った。（島崎）

	〔中村〕	得	〔鈴鹿〕	得
GK	石井	0	大畑	0
	末次	0	中尾	0
FP	坂口	4	佐々木	3
	福士	1	三本松	1
	大木	4	田野	2
	三尾	1	立木	8
	塚田	4	尾上	0
	長原	1	玉井	1
	窪田	0	栗屋	3
	吉田	1	吉山	6
	小野	0	田口	4
	酒井	1	坂本	3
PT	(3)		(2)	
		17		31

（審・千野　大塚）

アシックス・ク 25 〔12－11　13－6〕 17 滋賀教員

○…前半互角に展開していたが、アシックスの若さあふれる足を使ったディフェンスの前に単発シュートを多発する滋賀のプレーは、逆にアシックスの速攻を許すこととなった。アシックスは、児玉のロングが要所を決め楽にゲームを進めた。

後半に入って、滋賀はベテランの味を発揮、スカイ、ポストを使い、また、相手のポイントゲッターを封じスローペースの攻めから加点追い上げたが、走力に勝るアシックスの前に屈した。

両チームGKの好守も見応えがあった。（千野）

	〔滋賀〕	得	〔ア・ク〕	得
GK	松山	0	渡井	0
FP	位田	0	森脇	3
	伊藤	7	仁志	2
	能波	3	望月	3
	井上	4	古賀	3
	武田	2	田中	2
	大野	1	小田	4
	橋山	0	松井	0
	林田	0	児玉	8
PT	(2)		(1)	
		17		25

（審・斉藤　中本）

三陽商会 29 〔15－13　14－13〕 26 トヨタ自動車

○…前半14—13と体力に勝る三陽がリードするが、トヨタも早いパスワークから必死に粘る。トヨタは13点のうちサイドシュート、ポストシュートが7点もあり、細かな動きが良くわかる。一方三陽は、関、実方とロングヒッターのミドルシュートとディフェンスを引き寄せそのポストシュートが攻めのパターンである。後半に入っても同様の攻防が続くが、三陽のパワーがトヨタのテクニックを上回った。（大塚）

	〔自動車〕	得	〔三陽〕	得
GK	玉津	0	大山	0
	中西	0	内野	0
FP	乙子	0	関	3
	堀江	1	清家	6
	中西	3	田口	2
	高木	0	砂川	3
	相本	1	山口	5
	川田	5	石原	0
	香井	14	実方	9
	山内	2	安藤	0
	久本	0	河村	1
	松永	0	吉原	0
PT	(1)		(2)	
		26		29

（審・福田　松尾）

大崎電気工業 31〔15―11 16―12〕23 京都教員B

○…前半10分過ぎより大崎がペースをつかみ、速攻で得点する。これに対して京都教員は短いパスをつないで攻撃するが、相手ディフェンスを崩し切れず4点差で前半終了。後半に入り、大崎は身長を生かしロング、速攻、ポストなどで加点する。京都教員もポストなどで反撃するが、今一つ及ばなかった。（中本）

〔京都〕

	選手	得
GK	咲本	0
FP	国府	7
	酒井	2
	奥西	0
	藤本	2
	福田	0
	西田	2
	西村	4
	杉山	4
	佐路	0
	池辺	2
PT		(5)
		23

〔大崎〕

	選手	得
GK	渡辺	0
	矢内	0
FP	松岡	12
	東江	2
	武田	1
	首藤	4
	中田	1
	山本	2
	越迫	0
	菅田	2
	宮崎	0
	宮下	7
PT		(0)
		31

（審・島崎 井上）

◆3回戦

湧永製薬 28〔15―8 13―11〕19 三景

○…立ち上がりから相手のミスパスに乗じて先手を取る湧永は、生駒のロングシュート、速攻で点差をつける。一方三景も田畑、田村のリードからサイド、ポストと多彩に追い上げ、22分9―8と逆転。山本がコートに入って落ち着いた湧永は再び13―11として前半終了。後半に入ってやや疲れの出た三景のマークが甘くなり、湧永はポストプレーを中心に徐々にリードする。必死の三景も好プレーで食い下がるが、高いディフェンスの湧永は、シュートカットから楽々と速攻で加点して快勝した。

山本の堅実なプレーと池ノ上の安定したロングシュートが見事であった。（北井）

〔三景〕

	選手	得
GK	中村	0
	北川	0
FP	田畑	7
	太田	0
	近藤	1
	高橋	0
	田村	3
	岡部	0
	藤山	0
	白倉	0
	山田	1
	郡司	7
PT		(3)
		19

〔湧永〕

	選手	得
GK	大城	0
	井藤	0
FP	池ノ上	9
	生駒	1
	藤本	1
	志賀	0
	中川	3
	内田	0
	山本	6
	奥田	1
	檜原	5
	津川	2
PT		(3)
		28

（審・川島 森）

日新製鋼 33〔19―13 14―9〕22 トヨタ車体

○…スピードのある長野を中心にトヨタは前半ポストプレーで日新ディフェンスを撹乱し、接戦に持ち込む健闘を見せた。しかし、スピード、パワーに一段勝る日新は、前半中ばからディフェンスの動きが活発化し、徐々に差を広げリードを奪った。後半に入ってもトヨタは持ち味を生かし追撃したが力及ばず善戦の域にとどまった。ロングヒッター西山の忠実なディフェンスが影の勝因ともいえ、賞讃したい。（岡本）

〔車体〕

	選手	得
GK	宮田	0
	村林	0
FP	長野	7
	藤尾	2
	萩原	4
	石丸	0
	磯貝	0
	河村	6
	松井	2
	中島	1
	蓑田	0
	大垣	0
PT		(1)
		22

〔日新〕

	選手	得
GK	西川	0
	森田	0
FP	森	3
	西山	7
	吉見	0
	甲斐	5
	藤井	4
	日野	3
	堀田	4
	一瀬	2
	高木	3
	脇若	2
PT		(2)
		33

（審・福田 松尾）

本田技研鈴鹿 21〔12―10 9―10〕20 アシックス・ク

○…開始1分、本田が速攻でゲット、アシックスも負けじとポストで切り返し、その後もアシックスのリードを本田が追い上げる展開で前半を終了。後半に入ってもアシックスが常に先手をとり、17分には5点のリードとなる。しかし、20分アシックス児玉の失格を誘い、22分には1点リードと逆転、その勢いで一気に2点連続ゲット。29分にアシックスも1点差とするが、本田が逃げ切った。（福田）

〔ア・ク〕

	選手	得
GK	渡井	0
FP	森脇	2
	仁志	0
	望月	4
	古賀	1
	田中	5
	小田	4
	松井	0
	児玉	4
PT		(3)
		20

〔鈴鹿〕

	選手	得
GK	大畑	0
	中尾	0
FP	佐々木	0
	三本松	1
	田野	0
	立木	6
	尾上	0
	玉井	0
	粟屋	4
	吉山	4
	田口	1
	坂本	5
PT		(2)
		21

（審・上久保 北井）

大崎電気工業 32〔13―14 19―10〕24 三陽商会

○…前半立ち上がり三陽はリズムに乗り、速攻、ロング、リバウンドと立て続けに得点し主導権をとる。大崎は10分中田のミドルシュートで得点してからリズムに乗り、その後確実に得点を重ねて17分には逆転、そのままリードを広げて前半を終了。後半立ち上がり三陽の速攻が決まり、連続4点をあげてゲームを盛り上げるが、高い守りの大崎のディフェンスを崩せず、結局前半の失点がひびいた。大崎・東江のプレーが光っていた。（記入者不明）

〔三陽〕

	選手	得
GK	大山	0
	内野	0
FP	関	6
	清家	6
	田口	0
	砂川	3
	山口	3
	石原	1
	実方	5
	安藤	0
	河村	0
	吉原	0
PT		(0)
		24

〔大崎〕

	選手	得
GK	渡辺	0
	矢内	0
FP	松岡	3
	東江	14
	武田	0
	首藤	1
	中田	5
	山本	5
	越迫	0
	菅田	1
	星野	0
	宮下	3
PT		(2)
		32

（審・岡本 清水）

◆準決勝

湧永製薬 25〔11―8 14―10〕18 日新製鋼

○…開始7分、生駒のフリースローからのロングシュート、山本のミドル、檜原のポストなどで4―0も湧永がリードを奪う。対する日新は、中盤やっとエンジンがかかり、サイドから甲斐の好シュートを中心に速攻、ポストと12―10まで追い上げるが、生駒の強烈なシュートと山本の好判断プレーで4点差で前半終了。後半も一進一退の中で相手ミスにつけこんで20分18―17と日新に逆転のチャンスが来たが、退場者をきっかけに速攻、PTなどを誘い、湧永が突き放した。

立ち上がりの明暗が最後まで勝負にひびいた。（北井）

〔日新〕

	選手	得
GK	西川	0
	森田	0
FP	森	1
	西山	4
	吉見	1
	甲斐	5
	藤井	1
	日野	0
	堀田	3
	一瀬	0
	高木	3
	野中	0
PT		(1)
		18

〔湧永〕

	選手	得
GK	大城	0
	井藤	0
FP	池ノ上	3
	生駒	9
	藤本	2
	志賀	3
	中川	1
	内田	0
	山本	5
	奥田	1
	檜原	1
	津川	0
PT		(3)
		25

（審・川島 森）

大崎電気工業 31〔7―12 13―8 1―4 5―2 1―1 4―1〕28 本田技研鈴鹿

○…大崎は1分宮下の豪快なシュートで口火を切ったが、4分過ぎ本田に5連続得点を許し、2―6と離され前半の主導権を譲った。後半に入り一進一退の試合展開であったが、15分過ぎ大崎は山本、宮下らのシュートで追い上げ、27分遂に同点とし延長に入った。

延長に入ると本田は4点を先取したが、大崎の追い上げもすさま

〔鈴鹿〕

	選手	得
GK	大畑	0
	中尾	0
FP	佐々木	5
	三本松	0
	田野	0
	立木	11
	尾上	0
	玉井	1
	粟屋	4
	吉山	2
	田口	1
	坂本	4
PT		(1)
		28

〔大崎〕

	選手	得
GK	渡辺	0
	矢内	0
FP	松岡	5
	東江	2
	武田	3
	首藤	5
	中田	1
	山本	5
	越迫	1
	菅田	1
	星野	0
	宮下	8
PT		(3)
		31

（審・岡本 清水）

じく第2延長までもつれ込んだ。第2延長の後半、大崎は連続して得点をあげ本田を突き放した。
見応えのある好ゲームであった。（後藤）

◆決勝

湧永製薬26（11—7 15—12）19大崎電気工業

○…14年ぶりの優勝をめざす大崎、7年連続9回目の優勝を目ざす湧永の戦いは、チャンピオン・湧永が昨年同様安定した力を発揮し、勝利を収めた。
準決勝の本田戦で第2延長まで戦った大崎は、やや燃えつきた感があり、ややスピードを欠いた。一方湧永は、生駒、池ノ上のシュートが確実に決まり、井藤のゴールキーピングも冴え、大崎を寄せつけなかった。（清水）

〔大崎〕		得
GK	渡辺	0
	矢内	0
FP	松岡	3
	東江	4
	武田	0
	首藤	2
	中田	1
	山本	4
	越迫	0
	菅田	0
	星野	0
	宮下	5
PT	(1)	19

〔審・上久保・北井〕

〔湧永〕		得
GK	大城	0
	井藤	0
FP	池ノ上	6
	生駒	5
	藤本	0
	志賀	1
	中川	0
	内田	0
	山本	3
	奥田	9
	楢原	2
	津川	0
PT	(0)	26

男子決勝。大崎は2年連続のチャレンジだったが及ばなかった（シュートするのは大崎・首藤）

女子

◆1回戦

日立栃木34（19—10 15—8）18シャトレーゼ

○…立ち上がりシャトレーゼはしなやかな動きで善戦したが、総合力に勝る日立栃木は、キャプテン手打とエース前田の速い動きから放つシュートで得点を重ね、前半を15—8。後半疲れの見えたシャトレーゼは、日立の堅いディフエンスを破ることが出来ず、34—18で終了の笛を聞いた。（後藤）

〔シャ〕		得
GK	丸山	0
	成島	0
FP	渡辺	1
	嶋崎	7
	海道	2
	松沢	3
	春山	3
	小林	0
	百瀬	0
	金子	1
	武田	0
	平田	1
PT	(2)	18

〔審・川島・森〕

〔日立〕		得
GK	葛生	0
	岡本	0
FP	手打	5
	前田	8
	清水	4
	吉田	3
	山本	1
	山岸	4
	井沢	8
	山口	0
	菅原	1
	尾苗	0
PT	(2)	34

東京重機工業30（15—9 15—8）17古都クラブ

○…市川のロングシュートを中心に組み立てる重機に対し、天野をはじめ確実なシュートチャンスを作るまで粘る古都クラブは、あきらめず追いかけ、10分まで3—3の同点。以後、実力に勝る重機は良く走り、得点を重ね出して単発にゴールを狙う古都クラブを押さえて前半15—8。後半に入っても堅実なプレーの衰えない古都クラブは、サイド、スカイなど織りまぜて追いすがるが、パワフルなシュートをディフェンスの上から打ちこまれ、重機の軍門に降った。
古都クラブは、クラブチームの持ち味を十分に出し切り、ナイスゲームを展開した。（北井）

〔古都〕		得
GK	石井	0
	森	0
FP	秋田	2
	黒木	1
	中江	0
	天野	5
	山戸	0
	多田	4
	正本	4
	西脇	0
	北尾	0
	花田	1
PT	(0)	17

〔審・後藤・島田〕

〔重機〕		得
GK	深瀬	0
	石井	0
FP	山崎	0
	市川	10
	大川	3
	中本	3
	嶋田	2
	伊原	1
	古谷	3
	大林	4
	安田	2
	星	2
PT	(0)	30

日本ビクター24（14—8 10—12）20日体大

○…試合は前半から日体大が先行し、それをビクターが追いかける接戦となった。しかし、ビクターは後半7分に15—14と初めてリードを奪い、その後ロングと速攻で健闘する日体大をふり切った。
両チームとも勝利を目ざしスピードのある好ファイトを展開したが、退場数に見られるラフプレーは一考を要するといえる。（岡本）

〔日体〕		得
GK	広瀬	0
FP	小口	5
	上嶋	0
	田中幸	1
	田中美	2
	吉岡	4
	大野	6
	今野	0
	堀米	2
	江原	0
	菊池	0
PT	(4)	20

〔審・上久保・北井〕

〔日ビ〕		得
GK	渡辺	0
	小口	0
FP	中根	1
	武藤	8
	長田	6
	遠藤	2
	下條	6
	平松	0
	根本	0
	宮川	1
	太田	0
	工藤	0
PT	(5)	24

ジャスコ30（12—16 18—10）26筑波大

○…立ち上がりジャスコが先手をとる。きびきびと動く同チームは切れの良い攻守を見せ、一方12分に6—6に追いついた筑波大は気迫をこめて食い下がり、好展開のゲーム様相。しかし、総合力に勝るジャスコが前半18—10とリード。後半、筑波大が絶えず先手をとり、中田のロングを中心に追い上げを見せる。両チームとも退場者が続出し、19分に5点差に迫った筑波大の勢いは盛り上がり、25分には1点差にとらえる。しかし、必死になってからプレーの多彩さで勝るジャスコは、残り3分でふり切った。（北井）

〔筑波〕		得
GK	杉本	0
	吉村	0
FP	中田	9
	沼田	3
	稲垣貴	0
	稲垣反	0
	河野	0
	鈴木	2
	中嶋恵	4
	中嶋華	4
	三宅	2
	和田	2
PT	(3)	26

〔審・岡本・清水〕

〔ジャ〕		得
GK	木村	0
	山口	0
FP	寺沢	3
	石田	2
	鷲野	5
	伊勢	2
	三木	5
	宮本	1
	十丸	0
	野村	6
	近藤	6
	徳重	0
PT	(1)	30

立石電機山鹿38（26—5 12—7）12東女体大

○…立石は立ち上がりよりビスニッチのミドル、及びポストプレ

ーで着々とゲットを重ね、守っては東女体大のポストプレーをことごとく見破って巧い守りで学生チームを寄せつけず、常にセフティーリードで試合を展開。中盤より東女体大も時折りポストプレーを成功させたが、後半に入るや立石はビスニッチの高い位置からのシュートが冴え、一気に大量リードのゲームとなる。東女体大も一矢をと懸命に攻撃をするが、15分間で1点のゲット。17分、北島のミドルシュートと時々ナイスプレーが見られたが、立石のスピードある展開と技術力の前に成すすべがなく、大差で敗れた。（福田）

〔東女〕	得		〔立石〕	得
永田	1	GK	荒木	0
山本	0	GK	竹下	0
越智	1	FP	近藤	2
小野	0	FP	亀園	2
猫本	0	FP	池上	6
長谷川	5	FP	江口	1
北島	4	FP	山口	1
後藤	0	FP	山内	6
鈴木	1	FP	野嶋	5
松本	0	FP	ビスニッチ	9
山田	0	FP	長谷川	5
藤井	0	FP	ジョルジェ	1
	12			38
	(1)	PT		(3)

〔審・斉藤、中本〕

大和銀行 19（9−8、10−6）14 武庫川女大

○…本年度だけで60回程対戦しているという両チーム。知り尽くしている点もあるだろうが、位置どりの悪さ、パスタイミングの悪さ、シュートミスなどで互いにスコアが伸びない。武庫川も途中13−12に追い上げる健闘を見せたが、日本リーグのパワーに押し切られた。大和は、5分間無得点の時間帯が5回もあったのは一考を要す。（斉藤）

〔武庫〕	得		〔大和〕	得
岡本	0	GK	高浜	0
前川	0	GK	増見	0
岡山	3	FP	秋成	3
茂山	0	FP	上西	4
大橋	1	FP	川原	0
糸永	0	FP	若水	2
笠井	2	FP	植田	2
堂下	1	FP	天谷	0
中村	3	FP	丸田	3
寄田	4	FP	佐々木	5
岸田	0	FP	上村	0
米田	0	FP	赤瀬	0
	14			19
	(2)	PT		(2)

〔審・福田、松尾〕

ブラザー工業 45（17−3、28−4）7 ソニー国分

○…全日本総合初出場のソニー国分の活躍が期待されたが、試合経験者が多いブラザーが楽に点を取り点差を開き試合が進む。ソニー国分も全員で頑張るが、試合経験数の違いが表われた試合だった。（松尾）

〔国分〕	得		〔ブ工〕	得
阿多古	0	GK	畑添	0
江崎	0	GK	大数	0
斜木	0	FP	荒木	7
光瀬	0	FP	小池	12
宮原	0	FP	赤井	2
石丸	0	FP	中村	2
久木田	1	FP	室屋	2
馬渡	4	FP	太田	9
山下	1	FP	久保田	5
山口	0	FP	奥山	1
藤元	1	FP	森山	0
楠本	0	FP	松下	5
	7			45
	(1)	PT		(3)

〔審・島崎、井上〕

大崎電気工業 35（15−11、20−6）17 北国銀行

○…前、後半を通じて大崎電気がパスカット及び相手方のパスミスから着々と得点する。一方北国銀行は、ボール回しが遅く相手方に読まれるプレーが続き得点を許し、ディフェンスにおいても甘さが目立った。特に、大崎電気の李相玉、李京姫がスピード感あふれる好プレーを見せた。（井上）

〔北国〕	得		〔大崎〕	得
辻	0	GK	梅野	0
		GK	藤田	0
中川	6	FP	時實	4
林	1	FP	松尾	3
丹後	0	FP	宮嶋	1
中田	2	FP	石井	5
松下	2	FP	沖山	4
荒	1	FP	徳渕	4
藤田	3	FP	深沢	2
丸山	0	FP	西村	2
小玉	2	FP	李相玉	7
吉田	0	FP	李京姫	3
	17			35
	(0)	PT		(3)

〔審・千野、大塚〕

◆2回戦

日立栃木 25（13−7、12−8）15 東京重機工業

○…東京重機が好調なスタートを切ったが、10分あたりより日立栃木がペースをつかみ、相手のミスに乗じて速攻で得点し4点差で前半を終了。後半に入っても、日立栃木はミスをついての速攻、ロング、カットイン、ポストなどで加点する。これに対して、東京重機は短いパスを使って相手ディフェンスを崩しにかかるが、ミスが多く崩し切れず。ノーマークシュートを落ち着いて決めていれば、もう少しせった試合になっていたであろう。（中本）

〔重機〕	得		〔日立〕	得
深瀬	0	GK	葛生	0
石井	0	GK	岡本	0
山崎	1	FP	手打	4
市川	2	FP	前田	7
大川	2	FP	清水	2
中本	5	FP	吉田	1
嶋田	0	FP	山本	0
伊原	0	FP	山岸	4
古谷	3	FP	井沢	6
大林	1	FP	山口	0
安田	1	FP	中村	0
星	0	FP	尾苗	1
	15			25
	(0)	PT		(5)

〔審・千野、大塚〕

ジャスコ 26（14−5、12−11）16 日本ビクター

○…前半、両チームとも良く走ってはいたが、スロースターターの日本ビクターは8分過ぎから得点した。ジャスコは後半に入っても攻守ともに良くチームのまとまりがあり、着実に加点した。一方、日本ビクターは焦りもありパス、シュートに乱れがあり、それを狙われ逆速攻に持って行かれた。（島崎）

〔日ビ〕	得		〔ジャ〕	得
渡辺	0	GK	木村	0
小口	0	GK	小深田	0
中根	1	FP	寺沢	7
武藤	4	FP	石田	3
長田	6	FP	鷲野	4
遠藤	0	FP	伊勢	1
下條	4	FP	三木	6
平松	0	FP	宮本	0
根本	0	FP	十丸	0
宮川	1	FP	野村	1
太田	0	FP	近藤	4
工藤	0	FP	服部	0
	16			26
	(2)	PT		(6)

〔審・後藤、島田〕

立石電機山鹿 28（13−10、15−6）16 大和銀行

○…開始5分間は両チームとも互角に進んだが、立石はサイドから回り込み、速攻と多彩な攻撃をくり返し得点を重ねたが、大和は立石の足を使った堅い守りに攻撃のリズムがつかめず、一方的な展開となる。後半に入り、大和は早いタイミングでのシュートで対抗したが、試合の流れを変えるまで

には成らず、立石はエース・ビスニッチを休ませる余裕ある試合であった。（島田）

得	〔立石〕		〔大和〕	得
0	荒木	GK	高浜	0
0	竹下	GK	増見	0
0	近藤	FP	秋成	5
2	亀園	FP	上西	0
5	池上	FP	川添	0
2	江口	FP	若水	4
0	山口	FP	植田	2
7	山内	FP	天谷	0
5	野嶋	FP	丸田	5
4	ビスニッチ	FP	佐々木	0
3	長谷川	FP	上村	0
0	ジョルジェ	FP	赤瀬	0
28	(5)	PT	(3)	16

（審・中本、斉藤）

大崎電気工業 26（17—8, 9—12）20 ブラザー工業

○…大崎の李相玉、京姫コンビの華麗なるテクニックとブラザーの小池、中村の長身選手のパワーのハンドボールがぶつかり合ったが、大崎は立ち上がり3人のフローターからサイドプレーヤーがポストに入るやすかさず左フローターの位置に石井がサイドプレーヤーの位置に動き、この位置から3点連取し、がっちり大崎がペースをつかむ。その後ブラザーもスピードある攻撃で反撃するが、大崎のラテラルパス、バックパス、フックパスと自由自在にボールをあやつり、ブラザーをほんろうした。（大塚）

得	〔大崎〕		〔ブ工〕	得
0	梅野	GK	畑添	1
0	藤田	GK	大藪	0
1	時實	FP	荒木	2
0	松尾	FP	小池	3
6	宮嶋	FP	赤井	4
4	石井	FP	中村	4
2	沖山	FP	室屋	0
6	徳渕	FP	太田	4
0	深沢	FP	久保	1
0	西村	FP	奥山	0
3	李相玉	FP	森山	0
4	李京姫	FP	松下	1
26	(2)	PT	(0)	20

（審・井上、島崎）

◆準決勝

ジャスコ 20（10—7, 10—9）16 日立栃木

○…互いに十分に手の内を知り尽くした両チームは、堅いディフェンスで譲らず、やや攻めあぐみをくり返す展開を続け、得点は相手のミスパス、シュートカットからの速攻であげ、僅かにジャスコが1点リードして前半を終了。

後半7分過ぎ、ジャスコは寺沢の2本の速攻を皮切りに13—11から4点連取して主導権を取り、終盤必死に追いすがる日立をふり切って快勝した。（北井）

得	〔ジャ〕		〔日立〕	得
0	木村	GK	葛生	0
0	小深田	GK	岡本	0
7	寺沢	FP	手打	3
4	石田	FP	前田	7
1	鷲野	FP	清水	0
1	伊勢	FP	吉田	0
5	三木	FP	山本	0
0	宮本	FP	山岸	3
0	十丸	FP	井沢	3
0	野村	FP	山口	0
2	近藤	FP	菅原	0
0	服部	FP	尾苗	0
20	(4)	PT	(2)	16

（審・大塚、千野）

立石電機山鹿 34（15—15, 19—12）27 大崎電気工業

○…大崎・李相玉のサイドからの回り込みシュートでスタートし8—8まで全く互角の立ち上がりだったが、大崎のパスをカットした立石が速攻を決め、以後7連続得点をあげ主導権を取った。結局前半は19—12と立石が7点をリードして終了。

後半に入り、大崎はビスニッチにマンツーマンをかけ立石のペースを崩しにかかったが、立石・山内のロングシュートが決まり出し、調子に乗った立石の走りを止めることが出来ず逃げ切られた。（島田）

得	〔立石〕		〔大崎〕	得
0	荒木	GK	梅野	0
0	竹下	GK	藤田	0
0	近藤	FP	時實	2
3	亀園	FP	松尾	1
3	岩村	FP	宮嶋	0
4	池上	FP	石井	1
0	江口	FP	沖山	0
10	山内	FP	徳渕	4
5	野嶋	FP	深沢	0
8	ビスニッチ	FP	西村	0
1	長谷川	FP	李相玉	12
0	ジョルジェ	FP	李京姫	7
34	(4)	PT	(2)	27

（審・井上、島崎）

“助っ人”として大活躍、立石を優勝に導いたビスニッチ

◆決勝

立石電機山鹿 22（8—5, 7—10, 3—2, 4—1）18 ジャスコ

○…試合は決勝にふさわしく大激戦となった。ゲーム終了まで3分を切って15—13でジャスコがリード。しかし、立石必死の追い上げで残り1分遂に同点。ここで立石ラフプレーで2人退場、ジャスコ決勝点かとみえたが、ミス、同点で延長戦となった。

延長開始直後、立石は退場中のプレーヤーが不正入場でコートには3人のフィールドプレーヤーとなり大ピンチ。しかし、ここでエース・ビスニッチのロングが決まり逆にリードの展開。結局22—18で立石が逃げ切り感激の優勝。ジャスコにとって惜しい一戦だった。（岡本）

得	〔立石〕		〔ジャ〕	得
0	荒木	GK	木村	0
0	竹下	GK	小深田	0
0	近藤	FP	寺沢	7
0	亀園	FP	石田	1
5	岩村	FP	鷲野	1
2	池上	FP	伊勢	0
0	江口	FP	三木	8
0	山内	FP	宮本	0
4	野嶋	FP	十丸	0
11	ビスニッチ	FP	野村	0
0	長谷川	FP	近藤	1
0	ジョルジェ	FP	服部	0
22	(1)	PT	(3)	18

（審・島田、後藤）

第5回世界ジュニア男子選手権大会参加報告

日本は11位

第5回世界ジュニア男子選手権大会は、12月6日から15日までの10日間、16カ国が参加国してイタリアで開催された。
日本は予選リーグで1勝2敗、2次リーグは3戦全敗だったが、11、12位決定戦では地元イタリアに勝って11位を確保した。

優勝はソ連で、やはりまだまだヨーロッパ勢との力の差は厳しいものがあったようだ。ここに日本選手団の監督を務められた本田洋氏と選手団の反省文から数名のものを選び出して掲載、今後のジュニア諸君の一層の練習、精進を期待したい。

〔日本チームの戦いの跡〕

○予選リーグ

▼12月6日

ソ連 39（19－12、20－16）28 日本

	〔日本〕	得
GK	橋本行	0
GK	高橋	0
FP	藤井	2
FP	坂口	0
FP	斉藤慎	0
FP	今村	4
FP	首藤	8
FP	濱田	0
FP	上山	0
FP	橋本二	4
FP	甲斐	4
FP	河原	6
		28

▼12月7日

チェコ 30（16－5、14－8）13 日本

	〔日本〕	得
GK	橋本行	0
GK	高橋	0
FP	藤井	1
FP	坂口	0
FP	斉藤慎	0
FP	今村	2
FP	首藤	2
FP	濱田	4
FP	橋本二	3
FP	甲斐	1
FP	斉藤成	0
FP	河原	0
		13

▼12月8日

日本 25（11－15、14－9）24 ナイジェリア

	〔日本〕	得
GK	橋本行	0
GK	高橋	0
FP	藤井	3
FP	坂口	0
FP	斉藤慎	0
FP	今村	4
FP	首藤	7
FP	濱田	2
FP	橋本二	3
FP	甲斐	5
FP	新井	0
FP	河原	1
		25

○2次リーグ

▼12月10日

ユーゴ 37（19－15、18－13）28 日本

	〔日本〕	得
GK	橋本行	0
GK	高橋	0
FP	藤井	0
FP	斉藤慎	0
FP	今村	4
FP	首藤	11
FP	濱田	5
FP	上山	0
FP	橋本二	2
FP	甲斐	5
FP	新井	0
FP	河原	3
		28

▼12月11日

デンマーク 28（15－8、13－7）15 日本

	〔日本〕	得
GK	橋本行	0
GK	高橋	0
FP	藤井	1
FP	坂口	0
FP	斉藤慎	0
FP	今村	2
FP	首藤	4
FP	濱田	2
FP	上山	0
FP	橋本二	1
FP	甲斐	3
FP	河原	2
		15

▼12月13日

スペイン 27（15－9、12－9）18 日本

	〔日本〕	得
GK	橋本行	0
GK	高橋	0
FP	藤井	0
FP	坂口	1
FP	斉藤慎	0
FP	今村	1
FP	首藤	3
FP	濱田	1
FP	橋本二	4
FP	甲斐	4
FP	斉藤成	3
FP	河原	1
		18

○順位決定戦（11、12位）

▼12月14日

日本 19（12－9、7－8）17 イタリア

	〔日本〕	得
GK	橋本行	0
GK	高橋	0
FP	藤井	1
FP	斉藤慎	0
FP	今村	4
FP	首藤	8
FP	濱田	1
FP	上山	0
FP	橋本二	2
FP	甲斐	4
FP	新井	0
FP	河原	2
		19

〔順位〕

①ソ連②スウェーデン③ユーゴスラビア④西ドイツ⑤東ドイツ⑥チェコスロバキア⑦デンマーク⑧アイスランド⑨スイス⑩スペイン⑪日本⑫イタリア⑬韓国⑭ポーランド⑮エジプト⑯ナイジェリア

広く深い底辺をつくって

監督／本田　洋

現地でのトレーニング、コンディショニングを考える時、次のような条件があった。

①12月2日成田出発、20時間機内、12月3日ローマ着。一日後の12月5日移動（長距離）、次の日（12月6日）より第1戦が始まる。

②10日間で7ゲームを消化しなければならない。

③予選リーグでは3連日ゲームであり、世界のトップレベルであるソ連（12月6日）、チェコ（12月7日）との対戦の後にナイジェリア（12月8日）である。

④日本チームの選手の中で、これほどの激戦の3連日を体験した者は一人もなく、体力、技術力、精神力の不足は明白である。

⑤予選リーグで最下位となれば13～16の順位決定戦に出場しなければならない。だからといって、1戦目、2戦目を捨てて気を抜けば、チームは崩壊してしまい、3戦目のナイジェリアにも敗れてしまう。何としても、一戦ごとにチーム力をあげていかなければ、アフリカの（瞬発力と粘りがあり肢力や身長に比べてより長い上肢によるボールコントロールや素朴な粘りのある精神力から生まれる）素晴らしい運動能力を持つナイジェリアに敗れることは明白である。

これらを考慮し、

①12月6日第1戦ソ連、12月7日第2戦チェコ戦では選手起用を多様化し、勝敗にこだわらず全力を尽くさせ、腕を磨かせる。

②12月8日第3戦ナイジェリア戦には、選手の今大会での対応能力を、向上した能力をよく見分け、選手起用には適材適所を誤らないように注意し、選手には素直な気持でゲームに臨ませ、全力を使い果たさせる。

ということを作戦とする。そのためには、トレーニング、コンディショニング方法は、体力、意欲のレベルダウンをさせないで、休養、栄養を第一とし、精神的不安を防ぐ程度のトレーニング、1日1時間で臨み、初日のみ午前中練習させ、次の日からの連日ゲームある日は、トレーニングをしないでゲーム前のアップのみとする。

作戦成功、ナイジェリアに1点差で勝つ。後半終了前5分前、両チーム共バテていた。勝ち終えられたのは、終了5分前には防禦の要（キャプテン）がバテることを10分前に読めたこと、交代の防禦専門の選手がいたこと。

12月10日より決勝リーグ（第2次リーグ）に入る。第1戦ユーゴ。全力をあげて2勝目を狙うが及ばず。12月11日第2戦、デンマークに大敗する。選手の中に「勝てない」という先入観と打算的な逃げの精神状態が生まれてきたので叱咤する。

12月12日第3戦スペイン。選手は疲労困憊状態。世界のレベルを体験し、体格、パワー、技術の総合的な差、個人能力の高い選手群

によるチーム力の差の前で、自分の殻を破って立ち向かおうとしても、今現在では及ばないという諦めが湧いてきて、前日に引き続き後半になるとチーム力が低下し大敗してしまう。

時差によるコンディションについて。大会第3戦目（成田を発ってから6日目）の12月8日ナイジェリア戦では、時差による身体不適応状態がなくなっていた。

世界の上位レベルにとどかなく連敗の中で、選手個人の能力が成長しなくなったのは、第5戦目（予選リーグ3戦、第2次リーグ2戦目）よりはっきり現れる。それは、全選手の能力低下のようにも見られた。最終戦、12月14日順位決定戦（11、12位）であるが、対戦相手の競技能力は同等であり（体格、パワーは日本より上）、開催国チームであるだけに日本にとって不利であったはずなのですが、このゲームで最後だというのと、今まで連敗してきたチームよりも相手チームはレベルが低いのだという選手間の打算的な計算で意欲十分となり、大観衆の中で過緊張の中にも19—17でイタリアに勝った。

選手起用に難多くある時期、体力の疲労度ピークにあり、精神的緊張度の最も高い中で勝ち終えられたのは、①選手間より生まれた打算的な意欲、②後半の中ばより攻撃専門の選手が相手に勝ち越せたこと、③防禦専門の選手がよく役目を果たしたこと、などが考えられる。

最後に、日本選手が世界で要求されるのは、

①いかなる高いレベルの相手と競い合っても、打算的な意欲でない、競技にかけた意欲を常に自ら湧き立たせる精神力で、体力づくり、技術開発がされなければ、世界の上位レベルには立ち向えない。それは、ヨーロッパ主流の競技だけに「人生観とスポーツ観」において、選手の内面的なところに大きな基盤があるかないかの問題である。

②そのためには、少数の選手を専門に鍛えあげても追い越せない。広く深い底辺をつくりあげておかなければ追い越せない。世界を知り、日本独自の選手育成をする指導者を常に多く持つハンドボール界でなければならない。

「スポーツ」を新たな気持を思って体験出来たことに、日本体育協会、日本ハンドボール協会、選手を養成して来てくれた指導者、高校界、先生方に感謝致します。

参加選手たちの反省文から

首藤　信一

今大会で、私はディフェンス、オフェンス、精神的な面で、日本では体験出来ない事をより多く体験したと思います。この自分の体験で感じた事をディフェンス、オフェンス、精神面の三つに書き分けたいと思います。

1．ディフェンス

今大会で自分が一番良いフットワークをしている選手と思ったのは、ソ連のトップの選手で常にリズムを取り、ボールへ集中し、オフェンスの攻めずらい位置取りをし、攻守の切り替えが大変速く感激した。

私も日本チームでトップを守っていましたが、体格的な差によりなかなか高い位置で守る事が出来ませんでした。どうしても後5人の間がフォロー出来ずにさがり気味になってしまうパターンが多く、ヨーロッパ遠征までして1：2：3ディフェンスをやって来たのに非常に残念であり、悔やしく思いました。私もフットワークが楽に動くのも20分間ぐらいまでで、後の10分間のスタミナがなく、これを30分間にするのが私の第一の課題だと感じました。

フットワークもサイド、クロスも使い分けしていかなければならないと感じました。日本ではサイドステップのフットワークが重視されていると思いますが、日本がこれだけで守り切るには相当のスタミナが必要であり、また、素早くなければ無理があると感じました。これから日本は、サイド、クロスを使い分け、新しいフットワークを作って行くか、日本チームで相手チームに合ったディフェンス体形をしていかなければならないと感じました。このディフェンス体形を使える事と私自身で一番素早く正確なフットワークを使ってゆく事が第二の課題です。

後はやはり私も含め攻撃的選手揃っているため、どうしても守りをさぼってしまうクセが出たり、ボールに対して集中力が欠けていたり、フォローディフェンスを忘れてしまう事が残り20分間に多くあり、失点につながったと思います。

でもヨーロッパに行った時よりも少なくなって来ているものも確かですし、少しづつ選手全員に浸透して来たのは明るい事だと感じました。この守りについての考え方を徹底させていく事とディフェンスを重点に練習するように日本ハンドボールを変えて行かなければ何年たっても10位入賞するのは無理だと感じたのも事実です。

ディフェンス、オフェンスと変えて行くのも一つ方法だと思いますが、出来るだけ両方出来る選手を多くつくって行かなければならないし、私も目ざして行きたいと

思います。

この三つの課題（スタミナ、フットワーク、考え方）を自分自身で考え、自分のチームで実践し、少しでも変えて行きたいと思いました。

2．オフェンス

○シュート

今大会で多く得点の出来たのは、大きく回り込んで自分をマークしている人間とフォローする人間をずらし、3人目の所で打つシュートはほとんど得点出来たと感じました。日本で通用するそのボールを持った所で打ったシュートは、必ず相手チームの手に当たってしまいました。日本人のフェイントでは、完全に抜いて打とうとしても絶対に無理で、相手を半身ずらした時に打ち抜いていかなければダメだと実感しました。

これから日本でも世界でも通用してゆくためには、大きく相手をずらしていける瞬間的なダッシュ力とクイックで打ち込める技術とディフェンスを利用して打ち込める事の出来る技術が必要であるし、ポジションにこだわらない事も必要だと思います。日本人的な各ポジション一人と決めつけていては勝てないと思います。ポストもサイドも45度も出来るようでなければ外国に通用しないと思います。

私もこれからはオールラウンドに出来るように練習していきたいと思います。あとこれからは、ステップシュート、スタンディングシュートが必要だと試合を見て思いました。ディフェンスがあいた時にもらいすぐに打てる力が確実に必要です。（ジャンプシュートではつぶされるからだしGKに合わされてしまうから）、この事を練習で積み重ねていきたいと思います。

あと、もっとボールコントロール、ボディコントロールを養った方がいいとも思いました。それに相手をいかに引きつけてパス出来るか、この事も大切だと思います。

3．精神面

今大会は、本当に国と国との戦いで、日本の精神面の弱さが自分では感じられました。

外国チームはボールに対する集中力が素晴らしく、ボールカットリバウンドボールのせり合いに負けてしまう事が多いです。この事は自分自身で変えていくしかないと思います。

いかに60分間ボールに集中し、決してあきらめない強い心が必要だと痛感しました。それに自分を盛り上げていくのも巧く、このゲームに対する考え方も日本的な考えを捨てていかなければならないと実感しました。

上山　和弘

ジュニア世界選手権に参加してまず思った事は、

○各国の人々の体型（大、小）など関係なくパワフルでスピーディな動きがすごく目立つように感じた。

○日本のディフェンスで思ったことは、試合が始まってしばらくはディフェンスの動きはいいが、途中からは動きが悪く、ロングシューターに対してのつめが遅く、フリーの状態でシュートを打たれるようだ。

○ポストもマークしているつもりでも、フリーにボールを通されて、強引にシュートにまでもっていかれるケースもあった。

○相手に速攻をかけられている時の帰りが遅い。

○攻撃に関しては、全員の動きがスムーズに動いている時は、すごい攻撃だと思うけれど、一人一人の動きが悪いと単発的な攻撃になっていたと思う。

○試合の前半は接戦で勝てると思っていたら、後半の最初の動きが悪く、動きが良くなるまで相手に点を入れられ、どんどん点差が開いて負ける試合も多くあったように思う。

ジュニアで学んだことや試合を見て参考になったことなど、これから練習で自分のプレーしていきたいと思います。

斉藤慎太郎

今回この大会に出場して、今まで自分の頭の中にあったハンドボールというものに対する考え方が少しばかり変わったような気がした。個人のプレーのこともさることながら、いろいろな面でのチームのまとまり方についてもっと深く考えてみるべきだと思う。

たとえば、個人の力で点を決めた場合でも、その人が自分一人の力で得点をあげたのだと思っているのでは、チームは盛り上がらないし、そのような1点は実際に試合での結果の1点にはなるが、試合の流れのうえでは決して意味のある点数ではないと思う。だからどんな1点でもチームの一人一人が全員で取った点だという意識を常に持ち、1点を全員で喜べるようなチームになるべきだと思う。

悪くいうようだが、我がチームに少しだけそういう面があったように見えるのが残念だ。このように思うのは自分だけかもしれないが、これから自分らの後輩や自分らがこういったチャンスをもらったら、プレーの面でのディフェンスやオフェンスだけの意識の統一だけでなく、チームとしてのまとまりを作っていくようにすれば、力の差がないチームとあたった時のせったゲームでもここ一番という時に力を発揮出来るようなチームになるのではないかと思う。

次にプレーに関していえば、自分はサイドのディフェンスをしたのだが、これといってよく守れた

というゲームもないし、必ず一試合に二つ、三つのイージーなミスがあったと思っている。なぜそうなったかを考えたら、自分の頭の中でプレーについて考えようとしないためだと思う。だから相手に対しての適応力がなく、いつもワンパターンで守れる時は守れるが少々相手が変化をつけるとついていけなくなってしまう。早川先生などにも口をすっぱくするほどいわれたのも、この点についてもっと要求していたのではないかと思った。

オフェンス力がないのも、このことが多分に関係しているのではないかと思う。今までの自分は工夫というものを知らなかったし応用力も他人に比べて劣る点が多かった。この点について、日本に帰ったら今まで以上に勉強しなくてはいけないし、あとは他の人のアドバイスも自分なりに解釈して聞き、考えることも一歩上に上達するうえで必要だと思う。

今回のゲームの中身だが、まずソ連と試合出来たことは、とても参考になったし、世界一の選手らと実際にゲームしたことについて正直いってとても嬉しかった。

チェコとの試合は高さの壁というものについてとても驚かされた。日本のシュートがことごとくシァットアウトされてしまい、どうしようもないという感じだった。そういった中でもブラインドをつくクイックシュートが何本か素晴らしく決まったのには気持良かった。

あのゲームのように得点の取れないゲームは、いつも以上にディフェンスで相手の得点を少しでも押さえていくようにするのが重要なことだと感じた。

チェコの両サイドプレーがとても巧く何本もやられてしまったが、サイドプレーの巧い外人にはもっと徹底したサイドの守りをしなければいけないだろう。簡単に隣りのフォローに頼ったりするのも禁物だし、へたにボールカットを狙ったりするのも危険なことがわかった。

いろいろ自分自身でもまずいプレーがあったり、ゲームに負けておちこんだりしたこともたまにあったが、何といってもナイジェリアとイタリアに勝てたということが何にも増して嬉しかった。

坂口　俊幸

○ディフェンス面で自分のことについて考えてみると、7試合中3試合退場と退場が多すぎた。

○他の試合を見ながら外人選手と自分を比較してみると、身長の高い選手ほど腰を低くして守っている。足が常に動いている。足のかかとが床についていない。相手の攻撃に対し有利な間合をとらせないなどの違いがある。

○ディフェンスでは、西ドイツの1：2：3ディフェンスがとても素晴らしいと思った。

○速攻では、ソ連の全員速攻が素晴らしかった。

○ディフェンスの時、ポストプレーヤーを守っているようでも、ソ連のポストみたいな2m以上のポストだとプレーヤーにボールが渡ると得点になる確率が非常に高いため、ポストプレーヤーにボールを渡さないようなディフェンスをする必要がある。

○ロングシュートに対するディフェンスは、外人選手だと腰を押さえられていても腕がフリーなら得点されるので、腰と腕の両方を押さえるディフェンスが必要。

○外人選手をサイドからフリーにシュートさせると確率が高いため、いくら角度のない所からでもフリーにシュートさせないようにサイドのディフェンスはマンツーマンディフェンスが多かった。

○チェコとデンマークの試合では、チェコの方が上だと思っていたが、ディフェンスでチェコはデンマークより身長が高かったためか引き気味のディフェンスであったため、デンマークの選手にフリーでディフェンスとディフェンスの間から打たれていた。それに対しデンマークは、ピストンディフェンスでチェコの選手にフリーの状態でシュートさせなかった。

○この世界選手権では、ディフェンス面や攻撃面で参考になることが多くあった。その参考になったことをこれからの練習で少しでも多く自分のものにしたいと思う。

甲斐　章義

第1試合目ソ連戦、ディフェンスのセンター4人が190〜208cmを誇るソ連のディフェンスを、前半は横からの動きでゆさぶってからのクロスのロングがみんなよく決まっていました。後半に入ると、シュートカット、11〜12mからのロングシュートと、パワーと高さのソ連を見せつけられました。

チェコ戦では、ソ連と同様に高いディフェンスを攻めあぐんだシュートをことごとくカットされ、逆速攻されたそれは思い切ったプレーが少なく中途半端なプレーが多かった。中途半端なカットインはチャージをとられ、中途半端なシュートはカットいうふうな型で最後までリズムがとれなかったといった感じです。

しかし、ナイジェリア戦ではみんなこの試合は〝勝つぞ〟と思ってたせいか声が出ており、ディフェンスで良い時のカバー（フォロー）、また良い位置へのつめが出来ていました。

対ユーゴ戦も速いつめ、速いフォローなどが出来ていました。しかし、いつも悪いのは後半に入ってからの戦いぶりです。前半の戦いぶりがウソのような崩れ方でした。オフェンスは結構攻め切れるのですが、それはユーゴのディフェンスがあまり前へつめて来ませんでした。一ついえば、前へ出なかったので前ブロックよりも横ブロックを多く使えばもう少し広く攻められたと思います。

最終戦の対イタリア戦ではみんな開き直りました。泣いても笑っても残りはこの一戦だけという気持でした。しかし、観客のイタリアへの声援に度胆を抜かれました。落ち着こうと思うだけよけいに観客の声が耳に入り、自分が一人で足を引っぱった型になりました。そしていよいよ後半。まだ自分の気持も落ち着かないうちにだらだらと後半のゲームに入っていたのです。そしてペナルティー。〝甲斐いけ〟といわれた時、よしいつもの通り打てば大丈夫だろうと思っていたのですが、いつの間にか弱気になっていました。案の定引っぱり下をキーパーに当ててしまいました。しかし、この1本のペナルティーで目が覚めました。みんなでとった1本のペナルティーが自分にまかされたということ、自分がみんなからまかされた立場がようやくわかりました。その後の時間は自分の出来るプレーを出したつもりです。そして……結果イタリアに勝つことが出来ました。思わず泣けてきました。

みんなで勝ちとった最終戦の勝利でした。

第10回日本リーグ──詳報

第10回日本リーグは、前号の速報で伝えたように男子は湧永製薬が2年ぶり3度目、女子は大崎電気が2年連続2度目の優勝を飾って、昨年11月24日にその全日程を終了した。

そこで今月号では、後期の各チームの戦いぶりとその記録をお伝えすることにする。

〔男子〕

順位		湧永	大崎	日新	本田	三陽	勝	敗	勝点	得失点差
①	湧永製薬		○27−16 ○26−23	○23−19 ●18−20	○21−19 ○13−12	○29−12 ○32−17	7	1	14	+51
②	大崎電気	●16−27 ●23−26		○21−20 ○24−22	○21−16 ●19−23	○25−21 ●31−22	5	3	10	+3
③	日新製鋼	●19−23 ○20−18	●20−21 ●22−24		○22−17 ○22−20	○21−17 ○27−24	5	3	10	+9
④	本田技研鈴鹿	●19−21 ●12−13	●16−21 ○23−19	●17−22 ●20−22		○29−13 ○29−25	3	5	6	+9
⑤	三陽商会	●12−29 ●17−32	●17−21 ●24−27	●13−29 ●25−29	●21−25 ●22−31		0	8	0	−72

※勝点が同数のチームの順位は当該チーム間の対戦結果による。

〔女子〕

順位		大崎	立石	日立	ジャ	日ビ	大和	勝	敗	勝点	得失点差
①	大崎電気		●17−23 ○30−20	○25−19 ○20−19	○31−21 ○18−17	○33−19 ○27−20	○26−17 ○33−19	9	1	18	+69
②	立石電機山鹿	○23−17 ●20−30		○22−17 ●15−21	○19−14 ○24−21	○19−18 ○24−23	○25−19 ○21−13	8	2	16	+19
③	日立栃木	●19−25 ●19−20	●17−22 ○21−15		●20−30 ●31−18	○27−18 ○22−16	○19−15 ○21−12	6	4	12	+25
④	ジャスコ	●21−31 ●17−19	●14−19 ●21−21	○30−20 ●18−31		○23−22 ●21−24	○18−14 ○22−15	4	6	8	−14
⑤	日本ビクター	●19−33 ●20−27	●18−19 ●23−24	●18−27 ●16−22	●22−23 ○24−21		○24−18 ●21−24	2	8	4	−33
⑥	大和銀行	●17−28 ●19−33	●19−25 ●13−21	●15−19 ●12−21	●14−18 ●15−22	●18−24 ○24−21		1	9	2	−66

─男子─

〔第1週第1日／11月2日〕

▼岩手県営体育館

大崎電気24〔13−12／11−10〕22日新製鉄

○…大崎の得点でスタートした試合、日新の再三の得点機も大崎GKに守られてしまった。後半10分に大崎は同点に追いつかれたが、首藤、松岡の活躍で日新を2点差で降した。

大崎GK・矢内の好守が目についた試合であった。

	〔日新〕	得
GK	西川	0
	森田	0
FP	森	3
	西山	8
	吉見	2
	甲斐	2
	藤井	1
	日野	0
	堀田	3
	一瀬	0
	高木	2
	池田	0
PT	(2)	22

	〔大崎〕	得
GK	渡辺	0
	矢内	0
FP	松岡	7
	東江	7
	武田	0
	首藤	6
	中田	0
	越迫	0
	菅田	2
	宮崎	0
	大和田	0
	宮下	2
PT	(1)	24

（審・小友 谷藤）

〔第1週第3日／11月4日〕

▼広島サンプラザ

湧永製薬13〔8−6／5−6〕12本田技研鈴鹿

○…前半立ち上がり、本田・坂本のサイドシュートで先制。その後、本田、湧永ともに着実に加点して一進一退、前半は8−6と湧永の2点リードで終了。後半に入って20分で湧永4点リードしたが、本田は粟屋、立木の4連続得点で27分には12−12の同点で。しかし、湧水も良く粘り、28分に池ノ上が決勝のシュートを決め、辛くもふり切った。

	〔本田〕	得
GK	大畑	0
	中尾	0
FP	佐々木	1
	三本松	2
	田野	1
	立木	3
	玉井	0
	粟屋	2
	吉山	1
	田口	1
	坂本	1
	内藤	0
PT	(1)	12

	〔湧永〕	得
GK	大城	0
	井藤	0
FP	池ノ上	5
	生駒	3
	藤本	0
	志賀	2
	中川	0
	内田	0
	山本	2
	奥田	0
	橋原	1
PT	(2)	13

（審・中村 古富）

〔第2週第1日／11月9日〕

▼神戸市立中央体育館

日新製鋼20〔13−10／7−8〕18湧永製薬

○…立ち上がりから両チーム荒っぽいスピードのある試合展開で、それでいてミスの目立つ試合で湧永は池の上、日新は西山を中心としたゲーム、前半は湧永が1点をリードして終了。後半も一進一退のゲーム展開が続くが、残り10分日新・西山の連続ゲットで2点差として、その後2点を加え4点差をつける。湧永も池ノ上の連続ゲットなどで追いすがるも及ばず、日新が湧永を破った。

	〔湧永〕	得
GK	大城	0
	井藤	0
FP	池ノ上	9
	生駒	4
	藤本	1
	志賀	0
	中川	0
	内田	0
	山本	1
	奥田	2
	橋原	1
PT	(1)	18

	〔日新〕	得
GK	西川	0
	森田	0
FP	森	1
	西山	8
	吉見	2
	甲斐	3
	藤井	1
	日野	1
	堀田	3
	一瀬	0
	高木	1
	野中	0
PT	(2)	20

（審・島崎 井上）

〔第2週第2日／11月10日〕

▼東根市民体育館

本田技研鈴鹿23〔11−12／12−7〕21大崎電気

○…本田は、前半粟屋の速攻が決まり有利に展開、貴重な一勝をものにした。大崎は前半走りが鈍く、後半に入って首藤、東江の得点で追い上げたが、追いつかず敗れた。

	〔大崎〕	得
GK	渡辺	0
	矢内	0
FP	松岡	2
	東江	3
	武田	2
	首藤	8
	中田	1
	越迫	0
	菅田	2
	宮崎	0
	大和田	0
	宮下	1
PT	(2)	19

	〔本田〕	得
GK	大畑	0
	中尾	0
FP	佐々木	2
	三本松	3
	田野	2
	立木	8
	尾上	1
	玉井	0
	粟屋	2
	吉山	0
	田口	0
	坂本	1
PT	(2)	19

（審・今野 中島）

〔第2週第3日／11月11日〕

▼大阪中央体育館

湧永製薬32（17—8、15—9）**17三陽商会**

○…すべり出しは互角の展開で15分までシーソーゲームだったが、4連勝速攻で湧永が一気に抜け出て12—7と差をつける。後半、三陽は全員が良く動き追いすがるが、豪快なI・I砲がその度にさく裂して差が縮まらず、終盤15分間は実方の2ゴールのみとシュートミスが目立ち、全員ムラなく得点を重ねる湧永の一方的試合となってしまった。

〔三陽〕		得
GK	大山	0
	内野	0
FP	関	2
	清家	2
	田口	1
	砂川	3
	山口	0
	石原	0
	実方	6
	安藤	0
	河村	3
	吉原	0
PT	(1)	17

〔審・島崎・井上〕

〔湧永〕		得
GK	大城	0
	井藤	0
FP	池ノ上	6
	生駒	11
	藤本	0
	志賀	1
	中川	2
	内田	1
	山本	2
	奥田	4
	檜原	5
PT	(4)	32

〔第3週第1日／11月16日〕

▼水海道二高体育館

日新製鋼27（13—15、14—9）**24三陽商会**

○…前半1分、三陽は山口のポストシュートで先行。しかし、その後日新は甲斐、高木、一瀬らの速攻による得点で3—1とたちまち逆転、日新ペースとなり、またGK森田の好守で25分過ぎには11—7と三陽を引き離す。後半に入っても日新ペースでゲーム展開、10分過ぎには22—13と大量のリードを奪う。日新は西山を中心に高木、甲斐らの上をサイドの幅広い攻撃を日新の固いディフェンスに阻まれ、山口のポストを中心とした狭い展開であったが、14分過ぎから実方のパワフルなロングシュートが決まり、23分には21—25と追い上げたが及ばなかった。

〔三陽〕		得
GK	大山	0
	内野	0
FP	関	1
	清家	4
	田口	0
	砂川	1
	山口	6
	石原	0
	実方	8
	安藤	0
	河村	4
	吉原	0
PT	(1)	24

〔審・大澤・横瀬〕

〔日新〕		得
GK	西川	0
	森田	0
FP	森	1
	西山	8
	吉見	0
	甲斐	6
	藤井	2
	日野	0
	堀田	4
	一瀬	1
	高木	5
	池田	0
PT	(2)	27

湧永対大崎。湧永・檜原がとび込んでシュートを放つ

〔第3週第2日／11月17日〕

▼栃木市総合体育館

本田技研鈴鹿29（11—15、18—10）**25三陽商会**

○…前半、三陽は山口、実方らが必死に攻撃するも本田の堅いディフェンスに阻止された。本田は総合力で三陽を圧倒、前半を18—10で折り返した。後半、三陽は速攻などで反撃、終了間際2分前には2点差まで追いついたが、今シーズン初白星には至らなかった。

〔三陽〕		得
GK	大山	0
	内野	0
FP	関	1
	清家	2
	田口	0
	砂川	6
	山口	5
	石原	0
	実方	11
	安藤	0
	河村	0
	吉原	0
PT	(0)	25

〔審・広沢・住尾〕

〔本田〕		得
GK	大畑	0
	中尾	0
FP	佐々木	3
	三本松	0
	田野	4
	立木	4
	尾上	1
	玉井	0
	栗屋	7
	吉山	8
	田口	1
	内藤	1
PT	(6)	29

▼戸田市スポーツセンター

湧永製薬26（13—12、13—11）**23大崎電気**

○…湧永は、この試合に勝つかあるいは負けても11点差以内であれば優勝が決定する湧水に対し、大崎は地元の声援を受け心死に食い下がった。大崎はGKおよび東江の活躍で後半に一時は13—13と追いつくが、19分以降湧永は内田、生駒らが加点し、大崎をふり切った。

〔大崎〕		得
GK	渡辺	0
	矢内	0
FP	松岡	1
	東江	7
	武田	0
	首藤	6
	中田	3
	山本	1
	越迫	0
	菅田	3
	宮崎	0
	宮下	2
PT	(4)	23

〔審・斉藤・千野〕

〔湧永〕		得
GK	大城	0
	井藤	0
FP	池ノ上	8
	生駒	7
	藤本	1
	志賀	0
	中川	1
	内田	2
	山本	2
	奥田	4
	檜原	1
PT	(3)	26

〔第4週第1日／11月23日〕

▼四日市体育館

日新製鋼22（10−9、12−11）20本田技研鈴鹿

○…本田が素晴しいフットワークの栗屋で大砲・西山を封じれば日新はセミマンツーマンの陣型で立木を潰し、大畑、西川の両GKが要所をピタリと押さえた。両チームともディフェンスで特長を生かし、激しく守り合った。得点差は2点以上は開かず、大接戦は最後日新の甲斐のポスト、森の速攻で粘る本田をふり切った。

得	〔日新〕		〔本田〕	得
0	西川	GK	大畑	0
0	森田	GK	中尾	0
5	森	FP	佐々木	1
6	西山	FP	三本松	0
0	吉見	FP	田野	0
2	甲斐	FP	立木	2
4	藤井	FP	尾上	1
1	日野	FP	玉井	0
2	堀田	FP	粟屋	8
0	一瀬	FP	吉山	4
2	高木	FP	田口	1
0	野中	FP	坂本	3
22	(1)	PT	(4)	20

（審・中村、秋永）

〔第4週第2日／11月24日〕

▼熊本県立総合体育館

大崎電気31（16−10、15−12）22三陽商会

○…前・後半ともにディフェンスの良い大崎が着実にリードを広げ、メンバーを若手に変える余裕をみせ楽勝だった。

三陽の敗因は、練習不足からくる体力不足で無理なシュートが多く、ノーマークシュートも多くはずしていた。

得	〔大崎〕		〔三陽〕	得
0	渡辺	GK	大山	0
0	矢内	GK	内野	0
1	松岡	FP	関	5
7	東江	FP	清家	3
1	武田	FP	田口	0
6	首藤	FP	砂川	4
0	中田	FP	山口	3
6	山本	FP	石原	0
0	越迫	FP	実方	7
3	菅田	FP	安藤	0
0	宮崎	FP	河村	0
7	宮下	FP	吉原	0
31	(4)	PT	(1)	22

（審・島田、阪下）

女子

〔第1週第1日／11月2日〕

▼岩手県営体育館

大崎電気19（11−5、8−12）17ジャスコ

○…後半、大崎電気のミスにつけ込んでジャスコが追い上げたが、相手退場の間に得点を重ねることが出来ないのが響き、大崎電気が逃げ切った。李相玉のパスワークが目を引いた。

得	〔大崎〕		〔ジャ〕	得
0	梅野	GK	木村	0
0	藤田	GK	山口	0
2	時實	FP	寺沢	4
1	松尾	FP	石田	3
3	宮嶋	FP	鷲野	0
4	石井	FP	伊勢	0
0	沖山	FP	三木	6
1	徳渕	FP	宮本	0
0	塩谷	FP	十丸	0
0	西村	FP	野村	0
4	李相玉	FP	近藤	4
4	李京姫	FP	服部	0
19	(3)	PT	(2)	17

（審・菅野、半田）

▼宮城県スポーツセンター

日立栃木22（8−8、14−8）16日本ビクター

○…立ち上がり日立は固さが目立ち、またビクターの執ようなディフェンスとGK渡辺の好守に阻まれ得点に結びつけることが出来なかった。一方のビクターは、武藤を中心にして大きな攻撃を展開中根のサイドシュートを皮切りに長田が連続ゴール、14分まで4—0と日立を圧倒。しかし、15分過ぎより日立も吉田のカットイン、井沢の連続ゴール、前田のシュートなどで追いすがる。その後互角の攻防で8—8の同点で前半終了。後半に入り日立は3分まで連続ゴールで11—8としたが、ビクターも追い上げ依然として互角のゲーム展開。しかし、20分過ぎから日立はビクターの攻守のミスから猛攻、大きく引き離して試合終了。

得	〔日立〕		〔日ビ〕	得
0	葛生	GK	渡辺	0
0	岡本	GK	小口	0
1	手打	FP	中根	1
8	前田	FP	門脇	0
2	清水	FP	武藤	4
5	吉田	FP	長田	8
0	山本	FP	遠藤	0
2	山岸	FP	下條	2
4	井沢	FP	枝川	0
0	山口	FP	根本	1
0	菅原	FP	宮川	0
0	尾苗	FP	太田	0
22	(5)	PT	(3)	16

（審・今野、中島）

〔第1週第2日／11月3日〕

▼福島体育館

大崎電気27（13−10、14−10）20日本ビクター

○…大崎電気が李相玉、李京姫の得点力によって差を広げた。日本ビクターも武藤、長田が打って追い上げたが、差をつめるには至らなかった。日本ビクターはディフェンスの好守が目立ち、エース武藤が必死に得点を重ねたが、李相玉、李京姫のボール回しと得点力が一枚上回った。

得	〔大崎〕		〔日ビ〕	得
0	梅野	GK	渡辺	0
0	藤田	GK	小口	0
0	時實	FP	中根	0
1	松尾	FP	門脇	0
3	宮嶋	FP	武藤	8
2	石井	FP	長田	6
0	沖山	FP	遠藤	0
4	徳渕	FP	下條	3
0	塩谷	FP	根本	2
1	西村	FP	宮川	1
7	李相玉	FP	太田	0
9	李京姫	FP	工藤	0
27	(2)	PT	(2)	20

（審・小友、谷藤）

〔第1週第3日／11月4日〕

▼広島サンプラザ

立石電機山鹿21（12−6、9−7）13大和銀行

○…前半立ち上がり、両チームとも後期初戦で固さがあったのか7分までペナルティーの1点づつとスロースタートとなった。7分に大和・丸田のステップシュートで先行したが、立石も亀岡、岩村と連続得点しリズムをつかみ、その後もビスニッチの高打点からのシュートが良く決まり、前半立石が12—6とリード、後半立石は、ビスニッチをはずしたメンバーで臨んだが、大和の攻撃を速い動きで防ぎ、攻めては確実に得点を重

ね選手を入れ替る余裕を示し、後期初戦を快勝した。

得	〔立石〕		〔大和〕	得
0	荒木	GK	高浜	0
0	竹下	GK	増見	0
2	近藤	FP	秋成	3
3	亀園	FP	上西	2
2	岩村	FP	川添	1
1	池上	FP	若水	1
0	江口	FP	植田	0
0	山口	FP	天谷	0
2	山内	FP	丸田	4
2	野嶋	FP	佐々木	1
5	ビスニッチ	FP	上村	1
3	ジョルジェ	FP	赤瀬	0
21	(4)	PT	(2)	13

（審・東・中本）

〔第2週第1日／11月9日〕

▼神戸市立中央体育館

ジャスコ22（14−11 8−4）15大和銀行

○…前半、大和・佐々木が得点が動き出した。13分6−6の同点からジャスコは近藤のポストプレー、三木のカットからの速攻、野村のサイドのスカイプレー、寺沢のミドルシュートなどで試合を一方的にするかに見えたが、大和は植田のサイドプレーや秋成のノータイムフリースローからの得点で辛うじて3点差までつめ寄った。後半に入り、ジャスコ・寺沢が1分過ぎカットインを決めてからジャスコ優位は変わらず、両チームともミスが日立つ大味な試合で終了した。

得	〔ジャ〕		〔大和〕	得
0	木村	GK	高浜	0
0	小深田	GK	増見	0
6	寺沢	FP	秋成	4
2	石田	FP	上西	2
0	鷲野	FP	川添	0
0	伊勢	FP	若水	1
4	三木	FP	植田	6
0	宮本	FP	天谷	0
0	十丸	FP	丸田	0
3	野村	FP	佐々木	2
6	近藤	FP	上村	0
1	服部	FP	赤瀬	0
22	(7)	PT	(3)	15

（審・大原・浜野）

〔第2週第2日／11月10日〕

▼岐阜県民体育館

立石電機山鹿24（13−10 11−11）21ジャスコ

○…前半、ビスニッチのフリースローからのロング、ずらしてのアシストパスで得点を重ねる立石に対して、寺沢のロング、短かいパスをつないでのカットイン、ブラインドシュートで食い下がるジャスコであったが、前半終了5分前、ビスニッチのフリースローなどで立石が3点差をつけて折り返した。後半、ビスニッチの退場の間に一度追いつくが、ビスニッチにマンツーをしている間、野嶋のロングなどで5点差まで広げ、そのまま立石が逃げ切った。

得	〔立石〕		〔ジャ〕	得
0	竹下	GK	木村	0
		GK	小深田	0
0	近藤	FP	寺沢	5
1	亀園	FP	石田	3
2	岩村	FP	鷲野	1
2	池上	FP	伊勢	0
0	江口	FP	三木	6
5	山内	FP	宮本	0
8	野嶋	FP	十丸	0
5	ビスニッチ	FP	野村	0
1	長谷川	FP	近藤	6
0	ジョルジェ	FP	服部	0
24	(2)	PT	(9)	21

（審・吉田・川合）

▼東根市民体育館

大崎電気20（12−5 8−14）19日立栃木

○…日立は国体優勝の勢いをかって強敵・大崎との対戦であったが、前半にミスが多く、大崎のディフェンスを破ることが出来ず、12−5と大きく開かれ期待に反したゲーム展開となった。後半に入って日立は見違えるようなゲームを展開、逆に14−8と大崎を追ったが時間がなかった。前半の拙攻が惜しまれる。

得	〔大崎〕		〔日立〕	得
0	梅野	GK	葛生	0
0	藤田	GK	岡本	0
1	時實	FP	手打	2
0	松尾	FP	前田	6
2	宮嶋	FP	清水	0
5	石井	FP	吉田	1
0	沖山	FP	山本	0
5	徳渕	FP	山岸	5
0	塩谷	FP	井沢	5
0	西村	FP	宮原	0
3	李相玉	FP	中村	0
4	李京姫	FP	尾苗	0
20	(6)	PT	(1)	19

（審・小友・谷藤）

〔第2週第3日／11月11日〕

▼大阪中央体育館

大和銀行24（14−6 10−15）21日本ビクター

○…立ち上がり両チームとも固さが見られたが、幸先良く大和・秋成、ビクター・武藤の両大砲がシュートを決め圧倒的声援を受けた大和が1〜2点リードする形で序盤をリード。15分過ぎには、ビクターの反則から得たフリースローのボールを秋成が好判断で30m余りの超ロングシュートを決め場内の大拍手を受けてからは、せきを切ったように大和がゴールするのに比べてビクターは完黙、前半で8点の大差がついてしまった。後半、ビクターは武藤、長田で猛反撃するが、18−20にするのがやっとで、前半でのミスが大きかった。

大和対ジャスコ戦。ジャスコ・近藤がポストからとび込む

得	〔日ビ〕		〔大和〕	得
0	渡辺	GK	高浜	0
0	小口	GK	増見	0
3	中根	FP	秋成	5
0	門脇	FP	上西	6
8	武藤	FP	川添	0
6	長田	FP	若水	3
0	遠藤	FP	植田	4
3	下條	FP	天谷	0
0	平松	FP	丸田	3
0	根本	FP	佐々木	1
1	宮川	FP	上村	2
0	太田	FP	赤瀬	0
21	(3)	PT	(5)	24

（審・北山、大原）

〔第3週第1日／11月16日〕

▼水海道二高体育館

立石電機山鹿 24 〔13―14、11―9〕 23 日本ビクター

○…ビクターが前半立ち上がり下條のロングシュートでスタート、武藤を中心に下條、遠藤らが活躍、立石に対し17分過ぎには10―8と2点のリードを奪う。一方の立石もビスニッチを中心に攻撃を展開、岩村のポスト、野嶋、近藤らが加点、23分には13―10と逆転した。しかしながら、その後追加点が取れない立石に対しビクターは、長田のPTを皮切りに4連続ゴール、14―13と再度逆転。後半は両者ともに追いつき追い越しの逆転につぐ逆転の激しい攻防となり、28分過ぎ立石はビスニッチのPTで24―23と3回目の逆転、そのまま終了となる。

得	〔日ビ〕		〔立石〕	得
0	渡辺	GK	荒木	0
0	小口	GK	竹下	0
0	中根	FP	近藤	3
6	武藤	FP	亀園	0
5	長田	FP	岩村	4
2	遠藤	FP	池上	0
8	下條	FP	江口	0
0	平松	FP	山口	0
0	根本	FP	山内	2
2	宮川	FP	野嶋	6
0	太田	FP	ビスニッチ	9
0	永岡	FP	長谷川	0
23	(5)	PT	(5)	23

（審・山下、浜野）

日立栃木 31 〔21―9、10―9〕 18 ジャスコ

○…国体の覇者・日立は、前期の苦敗をはらすべく立ち上がりから前田を中心に清水、手打らが着実に加点、一方の追いすがるジャスコは、寺沢は中心に近藤、三木らで反撃に出るが、今一つプレーがかみ合わず、前半21―9と日立の大量リードで終了。この試合を決定づけた。後半は日立がややペースダウンしたか互角の試合運びとなったが、日立は前期の借りを返した。

この試合で前田、寺沢の両選手がともにリーグ史上5人目の200得点を果たした。

得	〔ジャ〕		〔日立〕	得
0	木村	GK	葛生	0
0	山口	GK	岡本	0
4	寺沢	FP	手打	5
2	石田	FP	前田	10
0	鷲野	FP	清水	2
2	伊勢	FP	吉田	2
6	三木	FP	山本	1
0	宮本	FP	山岸	6
0	十丸	FP	井沢	5
0	野村	FP	山口	0
4	近藤	FP	中村	0
0	服部	FP	尾苗	0
18	(4)	PT	(1)	31

（審・内田、高野）

〔第3週第2日／11月17日〕

▼栃木市総合体育館

日立栃木 21 〔9―8、12―7〕 15 立石電機山鹿

○…前半、日立は前田の好パスなどによる手打の得点、立石はビスニッチを中心とする攻撃などで9―8と日立リードで折り返した。前半持筆すべきことは、また両チームともGKの好守が目立った。後半両者一進一退の攻撃を展開、日立は中盤から前田、手打などの活躍で抜け出し3点をリード、終盤に入ると更に日立が勢いに乗り立石は初の黒星となった。

得	〔立石〕		〔日立〕	得
0	荒木	GK	葛生	0
0	竹下	GK	岡本	0
0	近藤	FP	手打	5
1	亀園	FP	前田	9
1	岩村	FP	清水	0
0	池上	FP	吉田	4
0	江口	FP	山本	1
1	山口	FP	山岸	0
0	山内	FP	井沢	2
5	野嶋	FP	山口	0
7	ビスニッチ	FP	中村	0
0	長谷川	FP	尾苗	0
15	(9)	PT	(3)	21

（審・横瀬、矢澤）

▼戸田市スポーツセンター

大崎電気 33 〔14―10、19―9〕 19 大和銀行

○…前半開始早々、大崎・李相玉の2連続得点から大崎が終始優位に立ち、相玉、松尾らが着々と加点。大和・丸田が4得点と活躍したが、大崎優位で前半終了。後半に入ると李京姫のシュートが決まり出し、その他李相玉、松尾らが着々と加点、リードを広げ、終始優勢に試合を進めた。

得	〔大和〕		〔大崎〕	得
0	高浜	GK	梅野	0
0	増見	GK	藤田	0
2	秋成	FP	時實	1
4	上西	FP	松尾	6
0	川添	FP	宮嶋	2
3	若水	FP	石井	3
2	植田	FP	沖山	3
1	天谷	FP	徳渕	2
5	丸田	FP	深沢	0
0	佐々木	FP	西村	0
2	上村	FP	李相玉	11
0	赤瀬	FP	李京姫	5
19	(5)	PT	(2)	33

（審・浜田、羽田）

〔第4週第1日／11月23日〕

▼四日市体育館

日本ビクター 24 〔13―9、11―12〕 21 ジャスコ

○…試合開始前にジャスコ・寺沢のリーグ200得点を記念し花束贈呈をするなどして盛り上がりをはかったが、試合の方は今ひとつ物足りず、前半16分までは7―7と競り合いをみせたが、ジャスコにパスミスが目立ちノーマークを作るチャンスを自ら潰し、後期白星のないビクターを勢いづかせた。後半23分には23―17の6点差と開き、余裕をみせて押し切った。

得	〔ジャ〕		〔日ビ〕	得
0	木村	GK	渡辺	0
0	山口	GK	小口	0
3	寺沢	FP	中根	3
1	石田	FP	門脇	0
1	鷲野	FP	武藤	6
5	伊勢	FP	長田	10
0	三木	FP	遠藤	1
1	宮本	FP	下條	3
9	野村	FP	平松	0
0	近藤	FP	根本	0
0	服部	FP	宮川	1
0	徳重	FP	太田	0
21	(6)	PT	(6)	24

（審・奥田、丸谷）

〔第4週第2日／11月24日〕

▼名古屋市体育館

日立栃木 21 〔13―8、8―4〕 12 大和銀行

○…試合開始から大和銀行はスピード感あふれる攻撃で中盤まで

常にリードする。しかし、地力に優る日立はあわてることなく好ディフェンスから確実に得点に結びつけ、逆に5点差をつけて前半終了。後半に入り大和は14分に初得点、一方の日立は前田のロングなどで得点を重ね大和をふり切った。

得	〔大和〕		〔日立〕	得
0	高浜	GK	葛生	0
0	増見	GK	岡本	0
3	秋成	FP	手打	3
2	上西	FP	前田	6
0	川添	FP	清水	1
1	若水	FP	吉田	3
1	植田	FP	山本	0
0	天谷	FP	山岸	3
0	前田	FP	井沢	5
4	丸田	FP	山口	0
0	佐々木	FP	菅原	0
1	上村	FP	尾苗	0
12	(1)	PT	(3)	21

〔審・川島、森〕

▼熊本県立総合体育館

大崎電気 30〔15－12 15－8〕20 立石電機

山鹿

○…前半、立石は大崎のオフェンスについていけず、ホールディングやプッシングにより5回の退場（ビスニッチ3回で失格）を出すディフェンスの乱れから7点の大差をつけられ前半終了。

後半、立石は山内、岩村が頑張るが前半の大差はどうしようもなく、最後は10点差で立石の大敗であった。

得	〔立石〕		〔大崎〕	得
0	荒木	GK	梅野	0
0	竹下	GK	藤田	0
1	近藤	FP	時實	0
2	亀園	FP	松尾	0
2	岩村	FP	宮嶋	3
0	池上	FP	石井	5
3	江口	FP	沖山	0
0	山口	FP	徳渕	2
6	山内	FP	深沢	0
4	野嶋	FP	西村	0
2	ビスニッチ	FP	李相玉	8
0	長谷川	FP	李京姫	12
20	(4)	PT	(5)	30

〔審・後藤、島田〕

大崎対立石の決戦。大崎が大差で勝って優勝を決める

〔2部〕三景、ブラザー工業が優勝

2部の男子は、三景、トヨタ車体、大阪イーグルスの3チームが最終週まで激しい首位争いをくり広げたが、三景が最終試合でトヨタ車体を破り首位を守り、来シーズンの1部昇格を決定した。

一方女子は、前期すでに4勝をあげているブラザー工業が、後期も全勝対決となった東京重機を大差で下して優勝を決めた。

入れ替え戦は、男子の三景は自動的に昇格が決まったが、2位の大阪イーグルスは三陽商会に連敗、そして女子のブラザー工業、東京重機も日本ビクター、大和銀行の前に各々連敗して1部昇格は成らなかった。

〈男子〉

第1週第1日（11月2日）

▼宮城県スポーツセンター

日鉄建材 20〔6－9 14－10〕19 中村荷役

第1週第2日（11月3日）

▼福島体育館

三景 24〔11－6 13－5〕11 日鉄建材

第2週第2日（11月10日）

▼岐阜県民体育館

大阪イーグルス 32〔16－9 16－8〕17 中村荷役

第3週第1日（11月16日）

▼貝塚市立体育館

トヨタ車体 27〔17－15 10－10〕25 トヨタ自動車

大阪イーグルス 26〔11－13 15－10〕 三景

日鉄建材 21〔13－5 8－9〕14 本田技研熊本

第3週第2日（11月17日）

▼大阪ガス体育館

トヨタ車体 24〔12－13 12－7〕20 大阪ガス

トヨタ自動車 33〔18－12 15－13〕25 本田技研熊本

第4週第2日（11月24日）

▼名古屋市体育館

三景 27〔14－5 13－10〕15 トヨタ車体

▼熊本県立総合体育館

本田技研熊本 33〔16－15 17－11〕26 大阪ガス

〔順位〕

①三景
②大阪イーグルス
③トヨタ車体
④トヨタ自動車
⑤日鉄建材工業
⑥本田技研熊本
⑦中村荷役運輸
⑧大阪ガス

〈女子〉

第1週第2日（11月3日）

▼福島体育館

東京重機 14〔8－5 6－7〕12 ムネカタ

第3週第1日（11月16日）

▼貝塚市立体育館

ムネカタ 20〔7－9 13－7〕16 ソニー国分

北国銀行 20〔12－11 8－8〕19 シャトレーゼ

第3週第2日（11月17日）

▼大阪ガス体育館

ソニー国分 18〔8－10 10－7〕17 北国銀行

ブラザー工業 27〔13－8 14－6〕14 東京重機

〔順位〕

①ブラザー工業
②東京重機工業
③北国銀行
④シャトレーゼ
⑤ムネカタ
⑥ソニー国分

〔入れ替え戦〕

〈男子〉

三陽商会 31〔17－11 14－8〕19 大阪イーグルス

三陽商会 31〔15－9 16－12〕21 大阪イーグルス

〈女子〉

日本ビクター 32〔14－9 18－6〕15 東京重機

日本ビクター 26〔10－11 16－9〕20 東京重機

大和銀行 18〔9－8 9－7〕15 ブラザー工業

大和銀行 20〔7－7 13－9〕16 ブラザー工業

発想の転換を

国内ルールをつくるのは容易な技ではないと思うが、日本国内では、今まで多くのハンドボールの専門家がいろいろと研究、努力を重ねて充実させ基礎を築いてくれた。しかし、ここ10年を振り返ると、旧態依然とした状態が続き、普及率はほとんど頭打ちに近い。

このような状態を続けていても進歩はなく、つまらぬ種目とのレッテルをはがすことは出来ないだろう。メジャーな協会の、発展段階に基づいて成功例に習うのも必要かと考えるが、二番煎じでは所詮うまく行くはずがない。それではどうしたら良いか、ということになるのだが、沢山あるひとつとして、ハンドボールの魅力の本質を知ってもらうことである。

それには、まず内側からで、現在プレーしている選手たちにもっと本気でハンドボールに取り組む姿勢を身につけさせなければならない。情熱を燃やしているチームや選手も勿論いるが、他の協会と比較するとその数の違いがある。その数を増やし、そして選手が引退してからもハンドを愛し、大会があればのぞいてみよう、応援をしてやろう、という環境づくりが必要である。

それをつくるのは、協会を初めとする現在の指導者の力以外はなく、他の何に頼ろうとするのか。指導者から選手への方向づけこそ今一番大切なハンドボール発展の要因ではなかろうか。

地味だがそれが必要で、一人でも多く強烈なファンが欲しい。一回か二回の俄か景気ではなく、永遠に続く人気を保つには土台をしっかり組まなければ長持ちしないのは言うまでもない。バレーボールやサッカー、バスケットボールに遅れを取ってしまった原因は余りにも多くの事情があり、ハンド関係者の責任を言い切れぬ歴史的なもので、条件の差があり過ぎたと考える。しかし、我々の意識を改革することによって、その大きな差を詰めることは可能だと思う。勿論、自らの手で選手を育成し、魅力ある強力チームを形成し、世界で入賞すると同時に国内では熱気のある試合会場まで発展すればニュース価値は自然と高まるはずで、まずそこまでは我々の手でつくらなければならないのは必定であろう。そこまで極めることが出来れば、マスコミ関係がそっぽを向くことはなかろう。

そうするには、競技内容が余りにも地味過ぎると思う。この点について、ハンドボール界大先輩の元日本協会常務理事で現在大阪協会会長の神田氏が、全国評議員会での席上で再度にわたりルール改正を提案している。

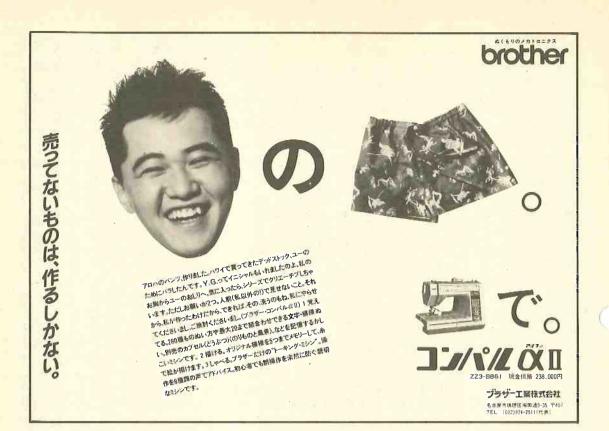
私も大賛成で、以前から考えてはいたが、その勇気ある発言をアウトサイドでしてはいたが、公の席での機会がなかった。公式の場で提議して頂いたので今後大いに議論を重ねて、慎重に進めて行くべきではないだろうか。

その楽しく、興味をひくハンドボールにするために必要なことと同時に、いまこそロングシューターを養成しなくてはならない。因にロス五輪の予選リーグの試合分析によると、試合中ロングシュートは227回あり、ゴールインは99本で44%の成功率を示した。これを勝者、敗者群に分けると、勝者群は、打数99に対して得点49で50%の確率と非常に高く、敗者群は打数129で50得点とこれも39%で可成り高いと言えよう。いずれもロングシュートの確率の高いチームが勝利を収めている。

この資料には日本チームは入っていないために比較は出来ないが、世界の体格を思うに、現在の日本の選手ではロングシュートを打つことは大変困難のように思える。これを高めるためにも、中学、高校のうちからロングシューターを養成していかなければならないと思う。したがって、現在のルールではポスト、サイド中心の攻撃法になるのは当然で、ロングシューターづくりを時間をかけてやるのは遠回りであることは良く理解出来る。そのために2点制を採用すればロングシュートに重点を置く戦法に多少切り変えるのではないか。

試合そのものも楽しくなり、世界へ通じるロングシューター養成にも繋がるのなら、もって来いの改正ではないのだろうか。

（川上整司）

男子28回女子21回全日本学生選手権

男子28回女子21回全日本学生選手権大会は、11月20日～24日の5日間山口県体育館他で開かれ、男子は大体大、女子は日体大が優勝を飾った。今月号は、そのインカレの1回戦からの試合結果をお伝えしておく。

男子

▼1回戦

早大 26（12 14／10 12）22 天理大
金沢大 22（2 2 10 8／1 3 8 10）22 山口大　3 PTC 2
法大 29（16 13／14 8）22 京産大
近畿大 22（11 11／12 7）19 福教大
広島大 29（12 17／13 10）23 東北学院大
国士大 45（27 18／16 12）28 大教大
名城大 16（10 6／9 6）15 函館大
慶大 34（12 22／17 8）25 福島大

▼2回戦

日大 28（17 11／8 12）20 早大
中京大 22（16 6／7 6）13 金沢大
法大 21（13 8／11 8）19 中央大
中部大 32（16 16／16 10）26 近畿大
日体大 27（13 14／12 7）19 広島大
同大 28（17 11／9 18）27 国士大
筑波大 28（15 13／10 15）25 名城大
大体大 20（9 11／8 11）19 慶大

▼3回戦

日大 24（12 12／11 12）23 中京大
中部大 23（11 12／10 12）22 法大
日体大 26（14 12／13 9）22 同大
大体大 19（10 9／8 8）16 筑波大

▼5位決定1回戦

筑波大 23（12 11／9 11）20 法大
同大 27（13 14／8 6）14 中京大

▼5位決定戦

筑波大 21（14 7／8 12）20 同大

▼準決勝

日大 31（15 16／9 13）22 中部大
大体大 26（14 12／15 7）22 日体大

▼3位決定戦

日体大 27（14 13／12 10）22 中部大

得	〔日体大〕		〔中部大〕	得
0	藤谷	GK	比嘉	0
0	中村	GK	水谷	0
3	横山	FP	河原	2
10	中澤	FP	當山	0
1	清水	FP	山村	3
3	高橋	FP	北	4
4	藤田	FP	大浦	0
0	四宮	FP	馬場	7
0	長谷川	FP	中野	2
3	林	FP	今村	0
2	斉藤	FP	毛利	3
1	橋本	FP	中村	1
27	(1)	PT	(4)	22

（審・福田 佐伯）

▼決勝

大体大 25（12 13／15 7）22 日大

得	〔大体大〕		〔日大〕	得
0	山下	GK	吉田	0
0	徐	GK	木明	0
1	斉喜	FP	武田	5
3	岡田	FP	佐藤	1
1	佐久間	FP	阿部	1
0	的場	FP	濱田	3
0	盛	FP	小田中	0
7	山村	FP	岡	4
4	大塚	FP	山形	0
9	楠本	FP	堀田	4
0	谷口	FP	近藤	4
0	渡辺	FP	白坂	0
25	(5)	PT	(1)	22

（審・清水 岡本）

東西決戦は、大体大が制する

女子

▼1回戦

日体大 39（19 20／13 7）20 中京女大
大教大 17（8 9／7 6）13 山口大
東女体大 39（19 20／5 5）10 九女短大
大体大 37（21 16／9 7）16 岩手大
筑波大 52（26 26／3 3）6 高知大
福岡大 33（15 18／10 5）15 東海大
日女体大 42（20 22／6 6）12 岡山県短大
武庫川女大 36（19 17／4 1）5 金沢大

▼2回戦

日体大 28（15 13／7 6）13 大教大
大体大 20（10 10／9 9）18 東女体大
筑波大 24（13 11／13 5）18 福岡大
武庫川女大 22（9 13／8 5）13 日女体大

▼準決勝

日体大 25（12 13／7 4）11 大体大
武庫川女大 16（1 2 4 9／1 1 7 6）15 筑波大

▼3位決定戦

筑波大 20（12 8／10 6）16 大体大

得	〔筑波大〕		〔大体大〕	得
0	檜谷	GK	野村	0
0	吉村	GK	山本	0
8	中田	FP	藤田	9
0	高木	FP	川端	0
1	市川	FP	谷坂	0
2	芥川	FP	橋本	1
1	吉永	FP	渡辺	0
2	沼田	FP	西口	1
0	河野	FP	大角	2
0	中嶋華	FP	小橋	0
6	三宅	FP	中尾	2
0	相川	FP	池田	1
20	(2)	PT	(3)	16

（審・古富 増田）

▼決勝

日体大 24（14 10／11 7）18 武庫川女大

得	〔日体大〕		〔武庫川〕	得
0	広瀬	GK	岡本	0
0	安室	GK	前川	0
7	小口	FP	岡山	6
0	田中華	FP	茂山	1
0	田中美	FP	池渕	0
4	吉岡	FP	大橋	1
5	大野	FP	糸永	0
0	今野	FP	笠井	3
2	堀米	FP	堂下	0
3	梅原	FP	中村	1
1	江原	FP	寄田	6
2	黒沼	FP	岸間	0
24	(11)	PT	(6)	18

（審・赤地 山根）

「オセアニア選手権大会参加報告」

団長　福地賢介

大会名　第1回オセアニアハンドボール選手権大会
開催地　フランス領ポリネシアン・タヒチ・パペート
参加国　日本、タヒチ、オーストラリア、ニューカレドニア
期　日　1985年7月13日〜7月23日
選　手　「関東学生連盟加盟チームより選抜」（メンバー参照）

「記」

○大会について

フランス政府のフランス領ポリネシアン地域の交流を目的に開催されるポリネシアンフェスティバル（民族芸能、スポーツその他が開催）の中のハンドボール部門として開催されたもので、従来はタヒチ、ニューカレドニア、バヌアツ、ワリスフチナ、その他が参加して行われていたと聞いた。その後、日本、オーストラリアがニューカレドニアと交流することにより、ニューカレドニアの提唱で日本、オーストラリアも参加の機会が持たれた。

タヒチハンドボール協会が主催であるが、日本的な見解は、フランス政府主催でタヒチハンドボール協会は主管といったところである。フランス協会の役員1名派遣されてきていた。

○運営について

全体的に見るとスムーズであったが、時間については公私共に若干ルーズさが見受られた。運営に関与していた役員は、中国系の人物が多かった。会場となったドラゴン体育館（パペート市）のオーナーが中国系のためかと思ったが、それのみでなく、地元パペートのスポーツクラブの有力クラブである「フェニックススポーツクラブ」が中国系人物で構成されているためである。タヒチ本島のみでなく、周辺島々よりも役員は派遣されていた。補助役員はフェニックスクラブの若手の男女メンバーであった。

○会場について

ドラゴン体育館（地元ではドラゴンスタジアムと呼んでいる）であったが、正規のコートが作成され1千名弱の観客収容程度の規模である。

○参加国について

当初はタヒチ、ニューカレドニア、バヌアツ、ワリスフチナ、日本、オーストラリア、カナダの予定であったが、カナダは不参加で6チームのリーグ形式であったが、直前になってバヌアツ、ワリスフチナも不参加となったため4チームとなってしまった。（バヌアツとワリスフチナは代表のみ派遣されていた）

タヒチは身長180−185内外の選手が多く、どちらかといえば日本的なスピードプレーが主体であった。

ニューカレドニアはメイヤー、ノワレの元フランスナショナルの2枚を中心としたヨーロッパスタイルのチームであった。

オーストラリアは監督が元ユーゴのナショナルであった他、ゴールキーパー、ポイントゲッター2枚共にユーゴであり、スタメンの中でオーストラリア人は1名のみであった。190−195内外であり、パワフルなユーゴスタイルな攻撃が仲々のもので、我々は完全に力負したといって良い。

歴史（3年前から開始）が浅いため知られていないが、今回参加していないが、他にもユーゴ、西ドイツ、その他のナショナルチームでプレーしていたメンバーがいるとのことであり、いずれは日本の強敵になるのではないかと思われる。

○その他

◎オセアニアハンドボール連盟結成について

タヒチ、ニューカレドニア、オーストラリア、バヌアツ、ワリスフチナに我々がオブザーバーとして参加し、会議が持たれオセアニアハンドボール連盟の結成、この大会を今回第1回として3年ごとに「オセアニア選手権大会」として継続開催することになった。

また、アメリカ、カナダ、その他にも加盟の働きかけをするとしている。なお連盟の初代の会長はニューカレドニアのブラグリオ氏が選出された。次回は1988年の開催であるが、その年はオーストラリアの建国200年にあたるので、事情が許されるなら開催したいとオーストラリアが話していた。

◎日本のコーチのタヒチへの派遣要請について

タヒチハンドボール協会サラマン会長より「チーム強化のため日本のスピーディなプレーをいろいろ勉強したいので、日本へ1981年1月か2月に遠征したい。もし駄目ならば、フランス語か英語の話せるコーチを同時期派遣して欲しい。ニューカレドニアのブラグリオ氏に聞いたところでは、1982年に日本の学生チームがきた時に指導者にフランス語と英語の話す者がいたとのことであったので是非頼みを聞いてもらいたい」との話があったので全日本学連として日本協会に話すなり、何んらかの処置を願いたい。

○戦績及びメンバー

◎オセアニアカップ

日　本 27（10−18、17−17）35 オーストラリア

日　本 27（16−12、11−14）26 ニューカレドニア

日　本 19（12−8、7−15）23 タヒチ

◎パシィフィックカップ

日　本 22（12−12、10−9）21 ニューカレドニア

日　本 24（12−20、12−17）37 オーストラリア

◎メンバー

団　長　福地　賢介（関東学連理事長）
監　督　藤原　侑（関東学連理事）
コーチ　藤村　孝司（国士館大学ＯＢ）
コーチ　小笠原久郎（中央大学ＯＢ）
主　務　上田　真（関東学連副委員長）
選　手
GK　大沼　一義（日体大2年）
　　大尉　嘉彦（帝京大2年）
FP（主将）竹本　英俊（慶応大4年）
　　富田　俊二（東海大4年）
　　鈴木　伸幸（横国大4年）
　　会田　宏（筑波大3年）
　　新井　喜人（筑波大3年）
　　山下　勝俊（筑波大3年）
　　松永　智（筑波大3年）
　　兼行　章治（中央大3年）
　　小林　和典（日体大3年）
　　上原　修（国士館3年）
　　門井宏二郎（慶応大3年）
　　川島　伸夫（慶応大3年）

各地の記録から…

東海学生秋季リーグ戦

（9月16日～10月26日／名古屋市立体育館他）

▼男子1部

名城大 22-17 愛教大
中京大 42-19 愛教大
中部大 42-15 愛教大
名城大 32-23 南山大
中京大 31-11 南山大
中部大 46-14 愛学大
中京大 39-13 愛学大
中部大 41-14 南山大
名城大 32-25 愛学大
中京大 37-18 名城大
愛学大 21-18 愛教大
愛学大 21-20 南山大
中部大 27-22 名城大
愛教大 25-18 南山大
中京大 19-19 中部大

［順位］①中京大 ②中部大 ③名城大 ④愛知学院大 ⑤愛知教育大 ⑥南山大

▼男子2部

日福大 39-28 名学大
愛知大 26-25 滋賀大
日福大 27-21 愛知大
名学大 23-21 滋賀大
名古屋大 33-12 名工大
名学大 31-23 愛知大
日福大 33-23 滋賀大
日福大 35-22 名工大
名古屋大 26-22 愛知大
名古屋大 26-25 日福大
名学大 36-26 名工大
名古屋大 32-26 滋賀大
愛知大 18-18 名工大
滋賀大 26-15 名工大
名古屋大 30-22 名学大

［順位］①名古屋大 ②日本福祉大 ③名古屋学院大 ④滋賀大 ⑤愛知大 ⑥名古屋工業大

▼男子3部

岐阜大 不戦勝 愛医大
豊技大 19-19 常葉大
三重大 28-17 豊技大
三重大 21-18 岐阜大
静岡大 31-16 岐阜大
愛工大 29-21 皇学館大
豊技大 20-20 愛工大
三重大 23-21 愛医大
三重大 31-9 愛工大
岐阜大 31-15 常葉大
静岡大 25-10 豊技大
常葉大 34-19 皇学館大
岐阜大 24-11 豊技大
常葉大 27-13 愛工大
豊技大 25-19 愛医大
愛医大 17-16 常葉大
三重大 30-18 皇学館大
静岡大 34-10 常葉大
愛医大 23-21 皇学館大
静岡大 32-19 皇学館大
静岡大 26-11 愛工大
三重大 29-18 常葉大
静岡大 27-20 三重大
岐阜大 24-8 愛工大
静岡大 35-15 愛医大
愛工大 21-13 愛医大
豊技大 23-22 皇学館大
岐阜大 28-13 皇学館大

［順位］①静岡大 ②三重大 ③岐阜大 ④豊橋技術科学大 ⑤常葉学園大 ⑥愛知工業大 ⑦愛知医科大 ⑧皇学館大

▼女子1部

中京女大 28-18 愛教大
中京大 29-11 日福大
中京大 21-21 愛教大
愛教大 22-11 日福大
中京大 19-12 愛教大
愛教大 17-17 日福大
中京女大 34-10 日福大
中京女大 32-20 中京大
中京女大 27-9 日福大
中京大 26-11 日福大
中京女大 26-5 愛教大
中京女大 26-17 中京大

［順位］①中京女大 ②中京大 ③愛知教育大 ④日本福祉大

▼女子2部

三重大 18-14 岐阜大
岐阜大 21-16 愛学大
静岡大 19-9 皇学館大
皇学館大 25-13 岐阜大
静岡大 16-15 岐阜大
皇学館大 13-11 三重大
三重大 25-11 愛学大
静岡大 17-9 三重大
愛学大 36-26 皇学館大
静岡大 26-15 愛学大

［順位］①静岡大 ②三重大 ③皇学館大 ④岐阜大 ⑤愛知学院大

▼入れ替え戦

愛教大（1部5位） 28-20 日福大（2部2位）
静岡大（3部1位） 24-17 名工大（2部6位）
名古屋大（2部1位） 22-21 南山大（1部6位）
日福大（女子1部4位） 23-14 静岡大（女子2部1位）

※静岡大、名古屋大が昇格、愛知教育大、日本福祉大（女子）が残留となりました。

関西学生秋季リーグ戦

▼男子1部

大体大 38-18 同大
大体大 22-19 天理大
大体大 30-10 京産大
大体大 36-9 近大
大体大 32-11 大阪大
大体大 32-16 京教大
同大 27-22 天理大
同大 28-15 京産大
同大 32-20 近大
同大 29-23 大阪大
同大 38-21 京教大
天理大 31-28 京産大
天理大 22-21 近大
天理大 29-25 大阪大
天理大 27-19 京教大
京産大 21-18 近大
京産大 27-10 大阪大
京教大 24-14 京産大
近大 22-22 大阪大
近大 29-22 京教大
大阪大 23-21 京教大

［順位］①大阪体育大 ②同志社大 ③天理大 ④京都産業大 ⑤近畿大 ⑥大阪大 ⑦京都教育大

▼男子2部

大院大 29-23 大経大
大経大 32-25 関学大
大経大 34-27 大教大
大経大 24-17 関大
大経大 37-29 神戸大
大経大 44-20 桃山大
大院大 29-23 関学大
大院大 23-22 大教大
関大 22-17 大院大
大院大 32-23 神戸大
大院大 34-20 桃山大
関学大 29-26 大教大
関大 21-19 関学大
関学大 19-18 神戸大
関学大 19-18 桃山大
大教大 24-19 関大
大教大 37-21 神戸大
桃山大 30-23 大教大
神戸大 27-23 関大
桃山大 19-18 関大
神戸大 30-29 桃山大

［順位］①大阪経済大 ②大阪学院大 ③関西学院大 ④大阪教育大 ⑤関西大

⑥神戸大
⑦桃山学院大

▼男子3部

京都大 17－16 大市大
京都大 29－26 和歌山大
京都大 28－22 追手門大
京都大 24－17 立命大
京都大 22－18 大府大
京都大 23－18 滋賀大
大市大 22－20 和歌山大
大市大 32－17 追手門大
大市大 23－21 立命大
大市大 30－18 大府大
大市大 34－13 滋賀大
追手門大 27－22 和歌山大
和歌山大 18－16 立命大
和歌山大 26－21 大府大
和歌山大 38－9 滋賀大
追手門大 25－24 立命大
大府大 24－22 追手門大
追手門大 28－20 滋賀大
立命大 22－19 大府大
立命大 30－21 滋賀大
大府大 30－19 滋賀大

［順位］
①京都大
②大阪市立大
③和歌山大
④追手門学院大
⑤立命館大
⑥大阪府立大
⑦滋賀大

▼男子4部

竜谷大 20－16 甲南大
竜谷大 28－25 八代大
竜谷大 20－19 京工大
奈教大 31－26 竜谷大
竜谷大 32－21 仏教大
竜谷大 31－21 関外大
甲南大 28－28 八代大
甲南大 27－21 京工大
甲南大 26－21 奈教大
甲南大 25－22 仏教大
甲南大 24－20 関外大
京工大 27－25 八代大
八代大 44－29 奈教大
八代大 38－28 仏教大
八代大 38－30 関外大
京工大 31－31 奈教大
京工大 25－16 仏教大
京工大 32－27 関外大
仏教大 29－24 奈教大
奈教大 29－21 京工大
仏教大 30－26 京工大

［順位］
①竜谷大
②甲南大
③八代学院大
④京都工芸繊維大
⑤奈良教育大
⑥仏教大
⑦関西外国語大

▼男子5部

◎リーグ戦Aブロック

京府大 26－12 大外大
京府大 28－25 神院大
京府大 24－20 姫工大
京府大 26－12 大薬大
大外大 21－13 神院大
大外大 29－15 姫工大
大外大 36－19 大薬大
神院大 35－18 姫工大
神院大 29－10 大薬大
姫工大 25－21 大薬大

◎リーグ戦Bブロック

大工大 32－23 奈良大
大工大 20－14 神船大
大工大 23－17 大歯大
奈良大 24－23 神船大
奈良大 31－15 大歯大
神船大 23－16 大歯大

○順位決定戦

京府大 26－13 大工大
奈良大 29－17 大外大
神院大 12－0 神船大
姫工大 12－0 大歯大
大薬大 キケン 京外大

［順位］
①京都府立大
②大阪工業大
③奈良大
④大阪外国語大
⑤神戸学院大
⑥神戸商船大
⑦姫路工業大
⑧大阪歯科大
⑨大阪薬科大

※京都外国語大は不参加。

▼女子1部

大体大 14－14 武女大
大体大 35－11 大教大
大体大 32－12 天理大
大体大 39－3 京教大
大体大 48－2 成蹊女大
大体大 41－8 京都女大
武女大 32－8 大教大
武女大 27－4 天理大
武女大 30－4 京教大
武女大 37－3 成蹊女大
武女大 40－1 京都女大
大教大 16－10 天理大
大教大 21－3 京教大
大教大 26－15 成蹊大
大教大 35－11 京都女大
天理大 23－10 京教大
天理大 30－13 成蹊女大
天理大 35－9 京都女大
京教大 15－14 成蹊女大
京教大 12－11 京都女大
成蹊女大 15－11 京都女大

［順位］
①大阪体育大
②武庫川女子大
③大阪教育大
④天理大
⑤京都教育大
⑥大阪成蹊女子短大
⑦京都女子大

〈女子2部〉

関大 18－10 滋賀大
京府大 18－9 関大
関大 21－10 関学大
関大 18－9 仏教大
関大 24－9 奈教大
関大 23－8 大薬大
滋賀大 19－13 京府大
滋賀大 12－11 関学大
滋賀大 16－11 仏教大
滋賀大 20－8 奈教大
滋賀大 16－9 大薬大
京府大 20－17 関学大
京府大 13－13 仏教大
京府大 12－11 奈教大
京府大 15－13 大薬大
関学大 12－11 仏教大
関学大 11－11 奈教大
関学大 15－7 大薬大
仏教大 11－10 奈教大
仏教大 26－6 大薬大
奈教大 17－4 大薬大

［順位］
①関西大
②滋賀大
③京都府立大
④関西学院大
⑤仏教大
⑥奈良教育大
⑦大阪薬科大

〈女子3部〉

和歌山大 18－12 奈女大
和歌山大 24－8 関外大
和歌山大 19－7 大外大
和歌山大 13－4 神戸大
和歌山山大 23－8 大谷大

和歌山大 18—2 園田大
奈女大 15—5 関外大
奈女大 15—3 大外大
奈女大 12—3 神戸大
奈女大 20—8 大谷大
奈女大 15—9 園田大
関外大 16—15 大外大
関外大 16—10 神戸大
関外大 20—12 大谷大
関外大 19—10 園田大
神戸大 9—6 大外大
大外大 21—2 大谷大
大外大 17—3 園田大
大谷大 11—7 神戸大
神戸大 17—8 園田大
大谷大 21—10 園田大

〔順位〕
①和歌山大
②奈良女子大
③関西外国語大
④大阪外国語大
⑤神戸大
⑥大谷女子大
⑦園田学園女子大

第3回山口県学生秋季リーグ戦

（10月27日、11月10日／山口大）

山口大本部 44—20 徳山大
山口大本部 42—12 山口大医学部
山口大本部 24—7 宇部高専
山口大本部 38—8 徳山高専
徳山大 41—13 山口大医学部
徳山大 34—15 宇部高専
徳山大 43—16 徳山高専
山口大医学部 29—25 宇部高専
山口大医学部 38—10 徳山高専
宇部高専 31—17 徳山高専

〔順位〕
①山口大本部
②徳山大
③山口大医学部
④宇部高専
⑤徳山高専

北九州学生秋季リーグ戦

▼男子1部
福岡大 30—24 久工大
久工大 38—31 九産大
福岡大 41—23 九産大
久工大 31—24 九州大
福岡大 31—21 九州大
久工大 28—27 福教大
九州大 21—20 福教大
九産大 28—26 九州大

〔順位〕
①福岡大
②久留米工大
③九州産業大
④九州大
⑤福岡教育大

▼男子2部
熊本大 25—21 東和大
東和大 34—23 長崎大
熊本大 24—20 長崎大
東和大 39—33 西南大
熊本大 24—23 西南大
東和大 49—19 九共大
熊本大 不戦勝 九共大
長崎大 28—27 西南大
西南大 42—21 九共大
長崎大 不戦勝 九共大

〔順位〕
①熊本大
②東和大
③長崎大
④西南大
⑤九共大

▼男子3部
九工大 25—21 産医大
西工大 22—18 産医大
九工大 33—24 西工大
西工大 35—15 東海大
九工大 24—19 東海大
西工大 30—24 福工大
九工大 31—24 福工大
産医大 29—29 東海大
東海大 28—21 福工大
産医大 24—16 福工大

〔順位〕
①九州工業大
②西日本工業大
③産業医科大
④東海大
⑤福岡工業大

▼女子
福岡大 34—12 福教大
福教大 21—19 九女短大
福岡大 41—17 九女短大
福教大 33—11 長崎大
福岡大 41—9 長崎大
九女短大 24—17 長崎大

〔順位〕
①福岡大
②福岡教育大
③九州女子短大
④長崎大

第40回岡山県高校新人大会

（11月2、3、9日／津山商高、倉敷天城高）

〈男子〉
▼1回戦
津山工 26—5 和気
倉敷商 34—10 一宮
津山 24—7 矢掛
児島 18—9 児島一
玉野 11—9 青陵
井原 9—6 金川
玉野光南 24—7 西大寺
朝日 30—5 倉敷南
東岡工 22—12 岡山工
天城 13—7 邑久
倉敷工 25—15 大安寺
操山 23—21 水島工
関西 13—12 芳原
落合 20—9 備前東
総社 28—8 吉備

▼2回戦
古城池 27—10 津山工
倉敷商 20—6 津山
児島 11—9 玉野
玉野光南 29—2 井原
朝日 20—16 東岡工
倉敷工 20—13 天城
操山 19—12 関西
総社 28—7 落合

▼3回戦
倉敷商 13—9 古城池
玉野光南 16—9 児島
朝日 29—15 倉敷工
総社 22—14 操山

▼準決勝
玉野光南 21—15 倉敷商
総社 25—20 朝日

▼決勝
総社 22（13—7、9—14）21 玉野光南

※総社は2年ぶり4回目の優勝。

〈女子〉
▼1回戦
津山商 12—0 井原
総社 19—5 津山東
一宮 7—7 玉野光南（3PTC2）
備前東 18—2 金川
津山 17—4 朝日
大安寺 5—2 芳泉
倉敷南 13—8 操山
天城 24—3 青陵

▼2回戦
児島 23—1 津山商
総社 16—9 倉敷中央
古城池 19—6 一宮
西大寺 12—10 備前東

落合 13－6 津山
真備 12－8 大安寺
倉敷南 17－3 玉野
天城 15－8 倉敷商

▼3回戦
児島 13－3 総社
西大寺 23－3 古城池
落合 12－10 真備
倉敷南 13－8 天城

▼準決勝
西大寺 17－14 児島
落合 15－14 倉敷南

▼決勝
西大寺 26（15－5、11－1）6 落合

※西大寺は初優勝。

第3回石川県協会会長杯争奪戦

（10月27日、11月10日／北国銀行体育館、金沢美大体育館）

▼1回戦
小松ウェンズデイ・ク 28－19 小松クB
星稜ク 29－5 金沢美大
小松クA 28－9 県工ク

▼2回戦
小松ウェンズデイ・ク 18－14 金沢大
星稜ク 29－27 あすなろク
羽咋ク 12－0 金沢工大
小松クA 29－19 金沢市役所

▼準決勝
小松ウェンズデイ・ク 29－27 星稜ク
小松クA 37－8 羽咋ク

▼決勝
小松クB 32（20－11、12－6）17 小松ウェンズデイ・ク

第23回群馬県民体育大会

（11月3日／前橋商高）

〈男子〉

▼1回戦
藤岡市 30－20 高崎市
甘楽郡 32－25 桐生市

▼準決勝
前橋市 31－23 甘楽郡
富岡市 38－13 藤岡市

▼決勝
前橋市 24（10－6、14－8）14 富岡市

〈女子〉

▼1回戦
高崎市 20－11 桐生市

▼準決勝
甘楽郡 19－7 前橋市
高崎市 21－15 富岡市

▼決勝
高崎市 21（9－7、12－9）16 甘楽郡

富山県秋季選手権

（11月3、10日／富山市体育館、富山中部高）

〈男子〉

▼1回戦
想球会 27－7 般若ク
向陵ク 27－18 北嶺会

▼2回戦
氷見ク 18－15 想球会
富山大 25－11 二上ク
射水ク 15－14 西部ク
富山教員 26－19 向陵ク

▼準決勝
氷見ク 31－15 富山大
富山教員 19－10 射水ク

▼決勝
富山教員 25（13－11、12－10）21 氷見ク

※富山教員は3年ぶり3回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦
桜球会 14－2 富山大
想球会 11－3 砺波ク

▼決勝
桜球会 17（9－3、8－3）6 想球会

※桜球会は3年連続6回目の優勝。

富山県秋季高校新人大会

（11月3、4、10日／富山市体育館、富山中部高）

〈男子〉

▼1回戦
富山 16－12 富山高専
高岡 17－5 雄山
氷見 35－3 小杉
大沢野工 14－11 水橋
二上工 14－14 富山商（2PTC1）

▼2回戦
富山 15－8 富山工
伏木 25－6 高岡南
高岡 23－8 富山中部
高岡向陵 21－13 氷見
八尾 25－9 大沢野工
県羽 20－5 新湊
高岡商 21－10 富山東
富山南 8－7 二上工

▼3回戦
伏木 21－18 富山
高岡向陵 18－16 高岡
八尾 18－17 県羽
高岡商 26－12 富山南

▼準決勝
高岡向陵 32－20 伏木
八尾 23－21 高岡商

▼決勝
高岡向陵 35（20－7、15－7）14 八尾

※高岡向陵は2年連続3回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦
雄山 4－4 高岡（2PTC0）
富山女 9－6 富山北部
富山女短付 16－5 伏木
高岡向陵 22－8 高岡一女
有磯 22－7 高岡

▼2回戦
新湊 12－11 雄山
富山女 30－4 小杉
高岡向陵 28－9 富山女短付
有磯 14－11 高岡商

▼準決勝
富山女 13－4 新湊
有磯 18－11 高岡向陵

▼決勝
有磯 23（14－2、9－3）5 富山女

※有磯は2年連続18回目の優勝。

第6回九州小学生親善大会

（11月10日／久留米総合スポーツセンター県立体育館）

〈男子〉

▼予選リーグ

○Aブロック
ブリジストン 8－5 三根町クA
当尾小ク 11－6 小林小
当尾小ク 10－2 三根町クA
小林小 14－1 ブリジストン
小林小 14－5 三根町クA
当尾小ク 15－1 ブリジストン

［順位］①当尾小スポーツクラブ②小林小スポーツ少年団③ブリジストンスポーツ少年団④三根町ハンドボールクラブA

○Bブロック
沢祇ク 27－1 三根町クB
豊福小 10－5 駛馬南小
沢祇ク 17－4 駛馬南小

豊福小 17－1 三根町クB
駿馬南小 12－2 三根町クB
豊福小 14－10 沢柢ク
［順位］①豊福小②沢柢クラブ③駿馬南小④三根町ハンドボールクラブB
▼3位決定戦
沢柢ク（沖縄）15〔8－1, 7－3〕4 小林小（宮崎）
▼決勝
当尾小ク（熊本）6〔5－2, 1－2〕4 豊福小（熊本）

〈女子〉
▼予選リーグ
○Aブロック
明野西ク 11－5 当尾小ク
明野東ク 8－4 豊福小ク
明野西ク 9－5 豊福小ク
明野東ク 12－4 当尾小ク
明野西ク 6－4 明野東ク
当尾小ク 7－4 豊福小ク
［順位］①明野西ハンドボールクラブ②明野東ハンドボールクラブ③当尾小スポーツクラブ④豊福小
○Bブロック
舞鶴ク 7－6 沢柢ク
豊野ク 7－6 宇土
舞鶴ク 5－3 豊野ク
沢柢ク 9－2 宇土
沢柢ク 11－6 豊野ク
舞鶴ク 8－5 宇土
［順位］①舞鶴ハンドボールクラブ②沢柢クラブ③豊野クラブ④宇土ハンドボール部
▼3位決定戦
明野東ク（大分）9〔5－2, 4－3〕5 沢柢ク（沖縄）
▼決勝
明野西（大分）12〔4－2, 8－2〕4 舞鶴ク（大分）

茨城県中学新人大会

（11月8、9日／石岡中）

〈男子〉
▼1回戦
利根 20－11 美浦
土浦六 25－13 石岡
出島北 11－6 結城
伊奈東 21－4 玉造
水海道 21－16 美野里
古河一 12－10 鬼怒
府中 18－16 牛久南
▼2回戦
新館 19－14 利根
茎崎 21－8 麻生一
伊奈 18－14 土浦六
岩井 24－10 出島北
水海道西 23－14 伊奈東
勝田二 21－16 水海道
土浦三 21－15 古河一
千代田 30－11 府中
▼3回戦
新館 21－14 茎崎
伊奈 16－13 岩井
水海道西 17－14 勝田二
土浦三 21－11 千代田
▼準決勝
新館 11－10 伊奈
土浦三 18－13 水海道西
▼決勝
土浦三 11〔3－4, 8－6〕10 新館

〈女子〉
▼1回戦
茎崎 25－4 美野里
伊奈 9－8 水海道西
土浦三 19－6 勝田二
利根 10－8 岩井
麻生 19－9 出島北
▼2回戦
伊奈東 22－5 茎崎
牛久一 14－6 鬼怒
伊奈 12－11 新館
水海道 13－9 土浦三
北浦 13－10 利根
土浦六 17－4 結城
牛久南 28－4 石岡
岩井南 19－6 麻生
▼3回戦
伊奈東 23－6 牛久一
伊奈 11－10 水海道
土浦六 10－8 北浦
岩井南 16－10 牛久南
▼準決勝
伊奈東 23－4 伊奈
岩井南 13－8 土浦六
▼決勝
伊奈東 13〔8－5, 2－5, 2－0, 1－1〕11 岩井南

第29回京都府高校新人大会

（11月3日～24日／乙訓高他）

〈男子〉
▼予選リーグ
○Aゾーン
北嵯峨 23－7 同志社
洛陽工 20－17 洛西
同志社 25－11 洛北
北嵯峨 28－11 洛西
北嵯峨 20－8 洛陽工
洛陽工 21－14 同志社
洛西 15－13 洛北
洛陽工 21－14 洛北
北嵯峨 29－5 洛北
同志社 22－12 洛西
○Bゾーン
平安 17－14 北稜
乙訓 40－11 宇治
田辺 17－14 平安
北稜 36－5 宇治
乙訓 22－11 北稜
田辺 31－3 宇治
乙訓 24－13 平安
田辺 12－11 乙訓
田辺 15－9 北稜
平安 29－8 宇治
○Cゾーン
大谷 19－7 京都西
嵯峨野 10－9 久御山
大谷 15－11 西宇治
嵯峨野 20－14 京都西
久御山 22－17 京都西
西宇治 9－8 嵯峨野
大谷 17－16 久御山
西宇治 14－14 久御山
大谷 12－7 嵯峨野
西宇治 16－6 京都西
○Dゾーン
東宇治 17－4 堀川
洛星 13－8 木津
東宇治 22－13 洛星
東宇治 23－4 木津
洛星 19－10 堀川
木津 12－11 堀川
○Eゾーン
桂 19－4 鴨沂
向陽 28－8 日吉丘
日吉丘 12－10 鴨沂
桂 10－9 向陽
向陽 23－4 鴨沂
桂 19－9 日吉丘
○Fゾーン
洛水 31－6 伏見工
城南 18－14 西乙訓
城南 24－10 伏見工
洛水 34－6 西乙訓
西乙訓 27－13 伏見工
洛水 13－8 城南
○Gゾーン
東稜 15－9 東山
京都商 26－8 舞鶴高専
東山 23－8 舞鶴高専

東稜 14―12 京都商
京都商 17―13 東山
東稜 24―6 舞鶴高専

○Hゾーン

城陽 26―5 南八幡
桃山 20―13 洛東
城陽 17―10 南八幡
洛東 14―12 桃山
桃山 24―7 南八幡
城陽 19―13 洛東

▼準決勝リーグ

○Iゾーン

桂 15―6 東稜
田辺 16―5 城陽
桂 11―3 田辺
城陽 19―16 東稜
東稜 14―6 田辺
桂 15―8 城陽

○Jゾーン

北嵯峨 13―10 東宇治
洛水 11―9 大谷
北嵯峨 19―13 大谷
東宇治 13―9 洛水
東宇治 18―10 大谷
北嵯峨 17―12 洛水

▼準決勝

東宇治 24―10 桂
北嵯峨 29―13 東稜

▼決勝

東宇治 18（8―7、10―8）15 北嵯峨

※東宇治は2年ぶり2回目の優勝。

〈女子〉

▼予選リーグ

○Aゾーン

桂 13―7 嵯峨野
光華 12―9 洛水
北稜 13―9 嵯峨野
光華 18―8 桂
洛水 14―13 桂
光華 19―10 北稜
洛水 3―3 嵯峨野
光華 9―3 嵯峨野
洛水 19―5 北稜
桂 20―11 北稜

○イゾーン

向陽 17―9 西宇治
久御山 9―8 北嵯峨
西宇治 18―10 西乙訓
向陽 14―4 久御山
向陽 28―5 北嵯峨
久御山 11―9 西乙訓
西宇治 10―3 久御山
北嵯峨 13―11 西乙訓
向陽 21―6 西乙訓

○ウゾーン

東宇治 14―10 東稜
精華 12―5 山城
東稜 15―13 乙訓
乙訓 18―7 山城
精華 10―4 乙訓
東宇治 34―2 山城
東宇治 25―4 精華
東稜 14―6 精華
東宇治 21―3 乙訓
東稜 17―6 山城

○エゾーン

洛東 7―5 南八幡
京都女 23―4 日吉丘
鴨沂 11―9 洛東
京都女 14―3 南八幡
日吉丘 14―9 鴨沂
京都女 30―3 鴨沂
南八幡 7―4 日吉丘
洛東 6―5 日吉丘
鴨沂 11―5 南八幡
京都女 22―4 洛東

○オゾーン

洛西 16―7 田辺
西山 9―7 西京商
田辺 8―6 西京商
洛西 11―6 西山
洛西 11―5 西京商
田辺 9―8 西山

○カゾーン

桃山 14―4 洛北
明徳商 14―4 塔南
塔南 17―5 洛北
明徳商 22―4 洛北
桃山 11―6 塔南

○カゾーン

東宇治 12―11 京都女
東宇治 14―10 向陽
向陽 16―9 京都女

○キゾーン

洛西 15―7 光華
明徳商 15―9 洛西
明徳商 14―9 光華

▼準決勝

東宇治 22―12 洛西
向陽 21―13 明徳商

▼決勝

東宇治 16（7―7、9―5）12 向陽

※東宇治は6年連続6回目の優勝。

群馬県中学新人大会

（11月10、17日／富岡中、富岡小）

〈男子〉

▼1回戦

下仁田西中 37―2 高崎矢中
富岡中 15―13 富岡東中
富岡南中 25―6 藤岡南中
高崎南八幡中 21―17 甘楽二中

▼2回戦

下仁田西中 27―5 桐生相生中
下仁田東中 20―11 富岡中
富岡南中 19―6 甘楽三中
高崎南八幡中 27―7 前橋三中

▼準決勝

下仁田西中 11―10 下仁田東中
富岡南中 19―13 高崎南八幡中

▼決勝

富岡南中 15（6―7、9―7）14 下仁田中

〈女子〉

▼1回戦

太田休泊中 13―11 高崎南八幡中

▼2回戦

太田休泊中 16―11 高崎塚沢中
富岡南中 21―8 桐生相生中
高崎矢中 21―7 下仁田東中
富岡中 18―10 高崎高南中

▼準決勝

富岡南中 12―0 太田休泊中
富岡中 21―21 高崎矢中
1 PTC 0

▼決勝

富岡中 17（10―4、7―7）11 富岡南中

佐賀県高校新人大会

（11月10、23日／神埼農高）

〈男子〉

▼リーグ戦

神埼 15―15 佐賀西
佐賀農 31―6 佐賀東
神埼農 18―11 神埼
佐賀農 25―7 佐賀西
神埼農 27―14 佐賀東
神埼 20―18 佐賀農
神埼農 25―14 佐賀農
佐賀西 15―11 佐賀東
神埼農 33―17 佐賀西
神埼 17―9 佐賀東

［順位］①神埼農②神埼③佐賀西④佐賀東

〈女子〉

▼予選リーグ

○Aパート

神埼 8―1 東松浦
佐賀女 34―2 東松浦
佐賀女 26―2 神埼

○Bパート
神埼農 28−5 佐賀東
佐賀東 14−9 嬉野商
神埼農 35−3 嬉野商

▼3位決定戦
神埼 14−14 佐賀東
3PTC2

▼決勝
神埼農 17（9−7、8−8）15 佐賀女

第9回群馬県小学生総体
（11月17日／富岡高）

〈男子〉
▼リーグ戦
富岡黒岩小 11（4−0、7−1）1 前橋クラブ
富岡黒岩小 15（9−2、6−7）9 妙義少年団
妙義少年団 15（7−6、8−8）14 前橋クラブ
［順位］①富岡黒岩小②妙義少年③前橋クラブ

〈女子〉
▼1回戦
妙義少年団A 29（9−1、20−1）2 前橋クラブ
妙義少年団B 6（2−3、4−2） 富岡黒岩小

▼3位決定戦
富岡黒岩小 12（6−1、6−4）5 前橋クラブ

▼決勝
妙義少年団A 23（11−0、12−0）0 妙義少年団B

福井県高校新人大会
（11月16、17日／羽水高他）

〈男子〉
▼1回戦
藤島 20−14 羽水

▼2回戦
藤島 23−13 丹南
北陸 26−11 金津
武生 15−12 科技
高志 27−13 福井商

▼準決勝
北陸 24−8 藤島
高志 23−6 武生

▼決勝
北陸 20（7−6、13−7）13 高志

※北陸は8回目の優勝。

〈女子〉
▼1回戦
福井商 14−4 羽水
勝山 12−9 藤島

▼2回戦
福井商 10−7 仁愛
武生商 21−5 北陸
科技 20−9 福井女
高志 31−7 勝山

▼準決勝
福井商 19−5 武生商
高志 24−2 科技

▼決勝
福井商 25（12−4、13−2）6 高志

※福井商は4回目の優勝。

第35回青森県高校秋季選手権
（11月16、17日／野辺地町）

〈男子〉
▼1回戦
青森南 15−9 七戸
三本木 12−0 弘前南
青森 28−18 横浜分校
野辺地 36−10 今別
十和田工 34−14 山田
青森東 23−9 五所

▼2回戦
青森南 30−11 柏木農
青森 18−16 三本木
野辺地 28−11 十和田工
青森商 22−15 青森東

▼準決勝
青森 20−18 青森南
野辺地 18−13 青森商

▼決勝
野辺地 28（16−7、12−5）12 青森

※野辺地は2年ぶり5度目の優勝。

〈女子〉
▼1回戦
三本木 13−10 青森東
青森西 17−8 青森中央

▼準決勝
野辺地 23−7 三本木
青森商 19−16 青森西

▼3位決定戦
青森西 27−8 三本木

▼決勝
青森商 10（6−5、4−3）8 野辺地

※青森商は初優勝。

第29回岩手県高校新人大会
（11月16〜18日／盛岡商高、盛岡三高）

〈男子〉
▼1回戦
花巻農 30−16 一戸
盛岡南 32−17 盛岡商
釜石南 26−9 福岡工

▼2回戦
花巻北 25−18 花巻農
水沢 20−18 久慈
一関工 16−14 宮古
大迫 15−14 盛岡三
盛岡一 27−14 盛岡南
福岡 28−13 一関一
岩手 23−20 生活学園

▼3回戦
盛岡四 26−20 釜石南
花巻北 43−5 水沢
大迫 23−9 一関工
盛岡一 28−19 福岡
盛岡四 30−15 岩手

▼準決勝
花巻北 22−7 大迫
盛岡四 23−21 盛岡一

▼決勝
花巻北 30（15−7、15−8）15 盛岡一

〈女子〉
▼1回戦
盛岡南 10−9 盛岡四

▼2回戦
盛岡二 23−2 盛岡南
岩手女 20−8 久慈山形分
盛岡三 7−5 花巻農
花巻北 10−4 白百合学園
花巻南 11−5 平舘
水沢 8−5 向中野学園
宮古 9−7 大原商
釜石南 10−2 黒沢尻南

▼3回戦
盛岡二 14−3 岩手女
花巻北 12−7 盛岡三
花巻南 11−9 水沢
釜石南 16−4 宮古

▼準決勝
盛岡二 13−4 花巻北
釜石南 14−5 花巻南

▼決勝
盛岡二 16（7−3、9−4）7 釜石南

和歌山市選手権
（11月17日／県和歌山商高）

〈一般男子〉
▼1回戦
和歌山大OB 34−14 和歌山ク

▼2回戦
和歌山大 32−23 県和商高B
県和商ク 23−18 和歌山大OB
市和商高 16−15 近大附属高
県和商高A 16−12 桐蔭高
和歌山大 13−11 住友金属

▼準決勝
県和商ク 28−15 市和商高
和歌山大 22−18 県和商高A

▼決勝
県和商ク 25（16−7、9−12）19 和歌山大

〈一般女子〉
▼リーグ戦
県和商高 5−4 和歌山大
県和商ク 16−7 県和商高
県和商ク 11−11 和歌山大
［順位］①県和商ク②県和商高③和歌山大

〈中学男子〉
▼決勝
西和中 16（7−6、9−8）14 楠見中

〈小学生〉
▼決勝
男子 16（7−2、9−3）5 女子

インフォメーション＆トピックス

男子ナショナル ヨーロッパに遠征

男子ナショナルチームは、2月3日から18日まで、ヨーロッパに遠征、イタリア、スペインで国際トーナメントに参加する。

遠征メンバーは、団長・安藤純光（日本協会常務理事）、監督・津川昭（湧永製薬）、コーチ・佐藤要二（本田技研鈴鹿）の各役員で、選手は、GKが井藤英忠（湧永製薬）、大畑孝広（本田技研鈴鹿）、矢内浩（大崎電気）の3名、FPは、西山清、藤井泉（以上日新製鋼）、志賀良弘、奥田新治（以上湧永製薬）、朝生和光（山梨県職員）、立木浩二、内藤裕治、田口隆（以上本田技研鈴鹿）、山本興道、首藤信一（以上大崎電気）の10名。そしてテスト生として宮下和広（大崎電気）が同行する。

昌文女子高校招待 日・韓高校ハンドボール交歓交流試合

韓国の女子高校ハンドボール界の強豪・昌文女子高校を迎えての日・韓高校交歓交流試合は、12月23、24、25の3日間、東京・藤村女子高校、東京女子体育大学の体育館を使用して行なわれた。

日本からは、藤村女子高、佼成学園女子高、昭和学院、山梨選抜、名短付の各校が参加したが、世界女子ジュニア選手校で活躍した韓国チームの一員だった石選手を擁する昌文女子高の前には歯が立たず、ことごとく大差で敗れ去った。

▼12月23日（月／藤村女子高体育館）25分ハーフ

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
昌文女	32	15－4	17－7	11	藤村女（新人）
昌文女	26	12－7	14－13	20	藤村女（3年）

※参考

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
昌文女	25	14－7	11－8	15	埼玉青陵
藤村女	18	8－5	10－7	12	埼玉青陵

▼12月24日（火／東京女子体育大学体育館）20分ハーフ

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
昌文女	26	12－3	14－2	5	藤村女
佼成女	17	9－7	8－6	13	山梨選抜
山梨選抜	14	7－3	7－3	6	藤村女
佼成女	15	5－3	10－3	6	昭和学院
昌文女	28	17－9	11－5	14	山梨選抜
昭和学院	15	9－3	6－4	7	藤村女
名短付	21	13－3	8－5	8	佼成女

▼12月25日（水／東京女子体育大学体育館）20分ハーフ

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
名短付	24	11－3	13－4	7	藤村女
昌文女	22	12－4	10－5	9	昭和学院
名短付	13	6－4	7－3	7	山梨選抜
昌文女	30	11－10	18－8	18	佼成女
名短付	11	7－6	4－3	9	昭和学院
昭和学院	12	5－2	7－9	11	山梨選抜
昌文女	27	13－3	14－8	11	名短付

昌文女子高校を迎えて交歓交流が行なわれた

熊本県で ハンドボール専門コースが?!

熊本県ハンドボール協会参与の北川浩先生からお知らせいただいた熊本県での試みについてここで紹介しておきます。

熊本県の教育委員会は、61年度をメドに県内公立高校3校に全国的にもユニークな競技専門の体育コースを設置する構想を推し進めている。これは熊本県内の中学の優秀選手が県外に流出するのを防ぎ競技力向上を図るとともに個性重視の教育推進の一環として位置づけており、具体化に向けて検討しているとのこと。

これまでにも全国で体育コースを持つ学校は結構あるが、これまではどちらかというと体育指導者の養成といった点が強かったが、今回の熊本県の構想は、優れた資質を持つ生徒にさらに高度な技能をつけさせて競技力の向上を図ることを主眼としており、こうした狙いは全国でも初の試みである。

こうした狙いで、熊本県教育委員会が具体的にあげている種目の中にハンドボールがとりあげられている。男子ハンドボールは松橋高校で、他にサッカーの大津高校、ラグビーの熊本西高校の3種目があげられているとのこと。

まだ具体化には種々の検討項目があることだろうが、こうした試みから熊本県でハンドボールの強化、普及がどうした形で表れてくるか大変興味深いものがある。

"賠償責任保険がつきました"

1985

みんなではいろう！"スポーツ安全協会傷害保険"

スポーツ団体だけでなく 子ども会，婦人団体，地域のクラブ等の方々も 10名以上のグループで，ご加入になれます

●保険料(お1人につき)

種別		保険料	対象
第1種	A	350円	スポーツ少年団，子ども会など中学生以下の子どもの団体
	B	420	社会人の文化・奉仕活動団体，及び高齢者のスポーツ団体
	C	1,040	ママさんバレーなどの地域スポーツ団体，大学・会社などのスポーツ同好会
第2種	A	18,240	山岳登はん，リュージュ，スカイダイビング，熱気球など
	B	4,300	スキー，ラグビー，サッカー，柔道，ボクシング，馬術，硬式野球など
	C	1,570	卓球，テニス，陸上，軟式野球，バレー，ボート，体操，ハンドボールなど

(注) 第2種とは，高度なスポーツの競技者です。

●保険金額・てん補限度額(1,2種とも)

傷害保険			賠償責任保険	
			てん補限度額	
死亡・後遺障害保険金額	入院保険金日額	通院保険金日額	身体賠償1事故につき	財物賠償1事故につき
1,200万円 後遺障害の支払いは3%～100%	3,700円 支払限度日数 180日	1,000円 支払限度日数 90日	5,000万 免責金額 1,000円	100万 免責金額 1,000円

●体協公認等の指導者も10名以上まとまった場合は第1種Cで加入できます。また，指導する団体の一員としても加入できます。

●適用の範囲(担保条件)は

○加入者の所属する団体の管理下における活動中の事故。
○団体が指定する集合，解散場所と加入者の住所との通常の経路往復中の事故。
○ただし学校管理下(学校健康会の給付対象内)における事故は不担保。

●保険期間

昭和60年4月1日より翌年3月31日まで。ただし，中途加入でも翌年3月31日までです。(申込受付は3月1日から)

●加入申込み，資料の請求，お問合せは……

スポーツ安全協会各都道府県支部（主として教育委員会保健体育課または体育協会にあります），東京海上火災の営業店にご照会ください。

(財)スポーツ安全協会
東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館
電話 (03) 481—2431 (直通)

賛助会だより

1月からは新年度です
賛助会の輪をもっと広げましょう！
―ハンドボールの強化と普及を皆さんの手で―

ハンドボールをTVで

「ハンドボール！」。この素晴しいスポーツを皆さんのお友達も見たり体験されているでしょうか？

新聞紙上などで試合の結果が報道されておりますが、テレビで試合が放映されることはほとんどありません。より多くの人に、より深くハンドボールを知ってもらいたい、それが皆さんの心からの切望ではありませんか。

テレビで放映してもらうのは生やさしいことではありません。まず魅力ある試合であること、またその結果でもあると思いますが、多くの観客が集まることです。

今年はソウルでのアジア大会、1988年にはソウル・オリンピックと、目前に大きなイベントが迫っております。日本協会でも国際試合など魅力あるイベントを企画しておりますが、皆さんに、これを支えるハンドボールファンを一人でも多く増やしていただきたいのです。

賛助会が設立されてからおかげさまで2年たらずですが、昨年は法人会員21社、個人会員450名余のご加入をいただきました。

賛助会費収入からは機関誌増刷及び送料を差引いた残りは、強化、普及事業に大きな力となっております。

ハンドボールの観客を増やすためにも、新会員の紹介を是非ともお願いします。

小学生にハンドボールを

日本協会のもう一つの課題は、小学生に対するハンドボールの普及です。全国の各ブロック毎にようやくチビッ子ハンドボールが盛んになって来ました。親子ハンドボールのほほえましい姿が全国津々浦々に……。

この夢を皆さんとともに一日も早く実現したいものです。

どうか賛助会の皆さん、お一人お一人が一人でも多くの知人を誘っていただき、その新会員からまたご紹介をいただくことにより賛助会の輪を広げてまいりたいと思います。

1月から新年度を迎え、魅力ある会員の特典を具体化すべく検討を重ねております。

何卒皆さんの心からのご協力をお待ちしております。

会員証の切り替え手続きはお済みですか

昨年度の会員の皆さんには、ご継続のための書状をお送りいたしてありますが、会員証の切り替え手続きをお早目に済まされるようよろしくお願いいたします。

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二四八号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可 昭和六十一年一月二十五日 印刷 昭和六十一年二月 一 日 発行

東京都渋谷区 一一一
電話 代表 三六一
振替 東京 六一五八三四八番
編集兼発行人 大野金一
定価三百五十円
(年間購読料三千三百円)